

国立国語研究所学術情報リポジトリ

II.3. 場面3：失敗に対する謝罪・言い訳

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐々木, 優子, 水谷, 修 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002335

II.3. 場面3：失敗に対する謝罪・言い訳

佐々木 優子

II.3.0. はじめに

II.3.1. 「場面3」の被調査者について

II.3.2. 失敗直後の言語行動

II.3.2.1. 前提となる場面

II.3.2.2. 失敗直後の発話

II.3.2.3. 謝罪表現の出現率

II.3.2.4. 謝罪表現と年齢要因

II.3.2.5. 謝罪表現と性別要因

II.3.2.6. 謝罪表現の形の多様性

II.3.3. 失敗対処行動の差異

II.3.3.1. 対処行動の予測

II.3.3.2. 各国人の謝罪行動

II.3.3.3. 謝罪行動の印象

II.3.3.4. 謝罪行動の異なり方

II.3.3.5. 娘の謝罪行動の適切性

II.3.3.6. 娘の性格 その1

II.3.3.7. 家族の雰囲気 その1

II.3.4. 言い訳行動

II.3.4.1. 言い訳行動の評価

II.3.4.2. 言い訳の誠実性

II.3.4.3. 娘の性格 その2

II.3.4.4. 家族の雰囲気 その2

II.3.5. テーブルたたきに対する反応

II.3.6. おわりに

II.3.0. はじめに

「『日本語の乱れを嘆く』というは、『マナーを知らない車中の母子』と同じく『声』欄永遠のテーマ（後略）」という書き出しの書評を、新聞で読んだことがある。(注) しかし考えてみると、「母子」と同様、「マナーを知らない女子高生」も「マナーを知らない中年女性」も様々な場所でやり玉に挙げられることが多い。女性は年輩であろうが若かろうが、マナーを云々される傾向があるのではないだろうか。

「場面3」は、ふたりの女性の家庭内言語行動を糸口に文化的背景の異なる人々の言語行動観を探るものである。場は家庭内に設定され、コミュニケーションの参与者は家族のみである。場も人間関係も、どの文化においても基本的なものと言える。基本的なものではあるが、この場面は母国ではない国に滞在している人々、特に、短期滞在者にとっては難しい面があったかと思う。現住国の家庭内の様子はテレビドラマなどから想像するだけなのでよくわからないがと前置きした被調査者も少なくない。個人的な体験に欠けるという面では、より意識調査の面が強かったかもしれない。

以下、調査に用いた場面の娘（若い妻）を軸とする家族の言語行動を共通の出発点に、家庭内での言語行動がどのように認識されているかをデータから探ってみたい。日本文化を背景に持つ人々と、他の文化的背景を持つ人々との間で、どのような共通点と差異が見られるのだろうか。あるいは、年齢別、性別で傾向の違いを見ることが出来るだろうか。

II.3.1. 「場面3」の被調査者について

以下、「場面3」の被調査者がどのような集団であったかを、見ていくたい。

a. 性別

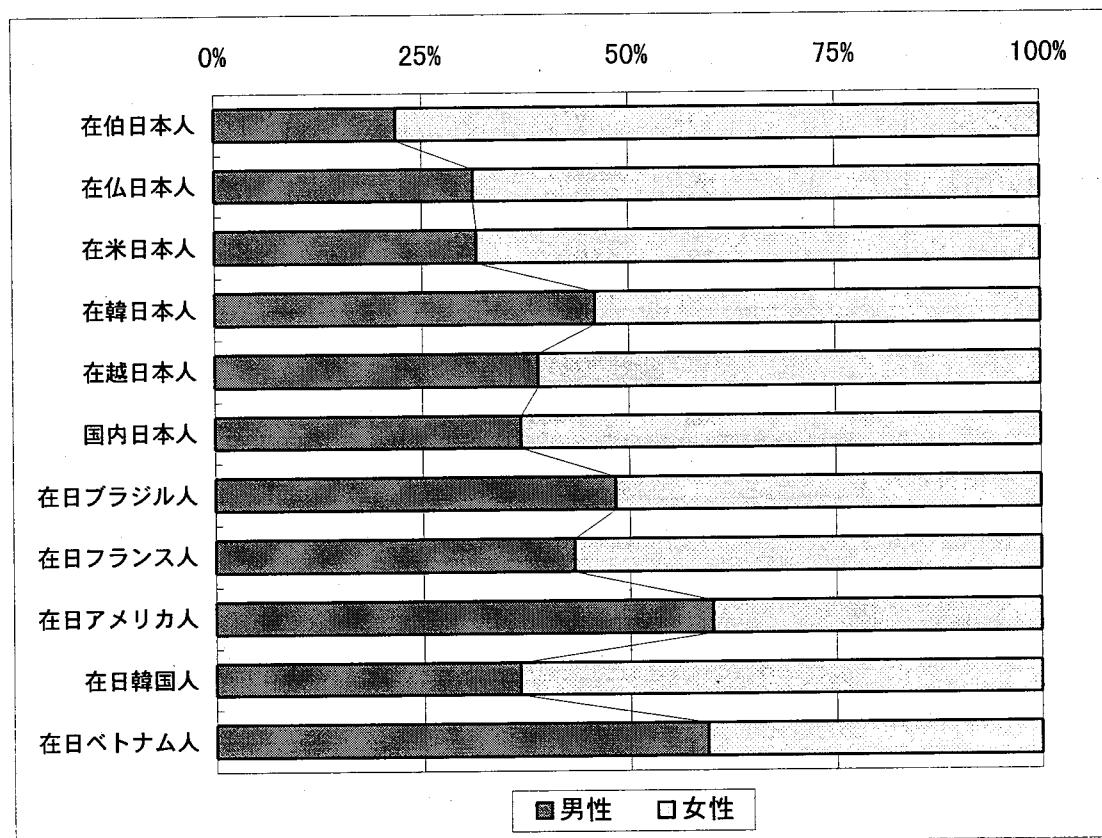
被調査者の男性、女性の割合はどうか。次ページの図表でまず目につくことは、女性の多さであろう。特に、在外日本人の場合、その傾向が強い。在伯日本人の場合、男性はひと桁台である。在伯、在仏、在米という非アジア圏において、女性の2分の1にも達していない。それに比べて在日外国人のほうは、ほぼバランスがとれている。男性のほうが女性より多いグループが11集団のうち、在日アメリカ人と在日ベトナム人のふたつだけであったことと併せて、分析の際には性別に注意したい。

なお、ここでの「在日韓国人」とは他の論文同様、韓国生まれ、韓国育ちで比較的最近来日した韓国人を指す。

（注）山口文憲（1998.8.30）「ちょー日本語は新方言」『朝日新聞』（『声』欄とは読者の投書欄を指す）

図表 II-3-1a-1 被調査者の性別内訳(人数)

グループ	男性	女性	合計
在伯日本人	7	25	32
在仏日本人	10	22	32
在米日本人	12	26	38
在韓日本人	23	27	50
在越日本人	18	28	46
国内日本人	24	41	65
在日ブラジル人	15	16	31
在日フランス人	13	17	30
在日アメリカ人	18	12	30
在日韓国人	11	19	30
在日ベトナム人	19	13	32
合計	170	246	416



図表 II-3-1a-2 被調査者の性別内訳(構成比)

b. 年齢

被調査者のグループ別平均年齢は以下の通りである。

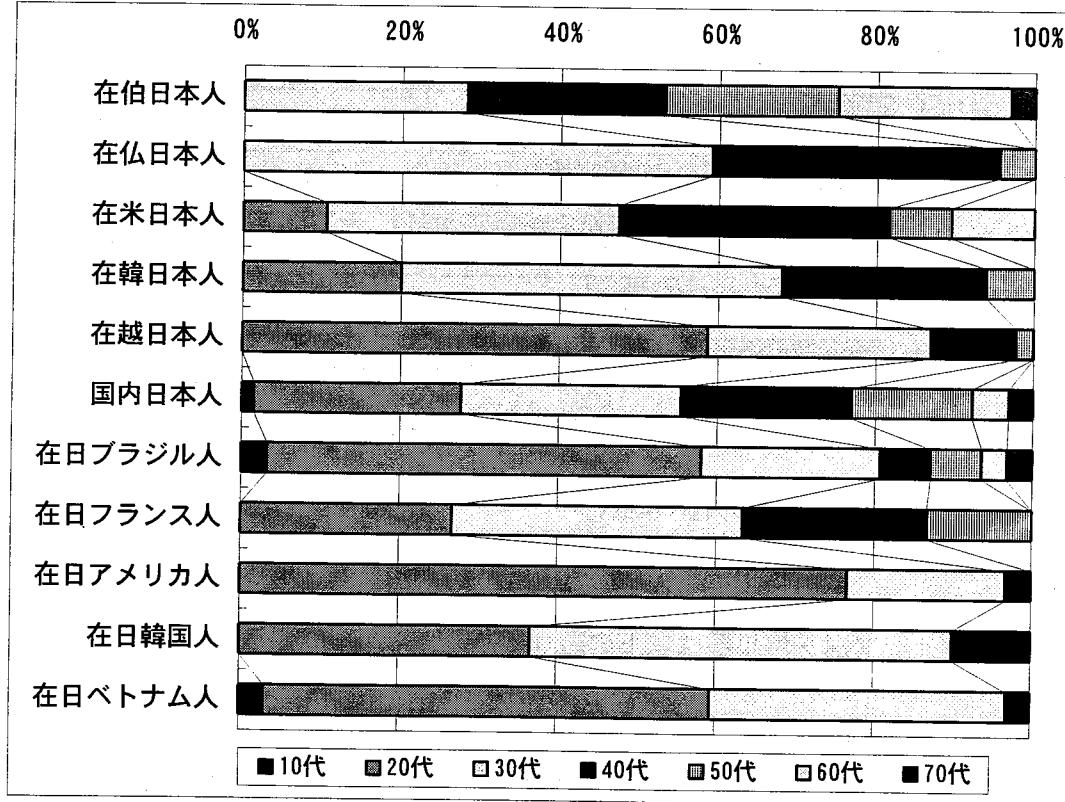
図表 II-3-1b-1 平均年齢

グループ	在伯日本人	在仏日本人	在米日本人	在韓日本人	在越日本人	国内日本人	在日ブラジル人	在日フランス人	在日アメリカ人	在日韓国人	在日ベトナム人
年齢	46.8	34.7	41.6	40	30.2	39.5	33.1	37	27.4	34	28.1

在日アメリカ人の 27.4 歳が一番若く、在伯日本人の 46.8 歳が一番年長だということになる。いずれにしろ、20 代から 40 代の中に納まるわけである。しかし、以下の年代別の構成を見ると、バリエーションの大きさに気付く。10 代、20 代がまったくいず、70 代までいる在伯日本人と、40 代 1 人、30 代 6 人のほかは 20 代に集中する在日アメリカ人という差異が浮かびあがってくる。在伯日本人から在日ベトナム人まで、ほぼななめに年齢構成が若くシフトする点が興味深い。やはり年齢構成も注意を要する項目かと思われる。

図表 II-3-1b-2 被調査者の年代別内訳(人数)

グループ	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
在伯日本人	0	0	9	8	7	7	1	32
在仏日本人	0	0	13	8	1	0	0	22
在米日本人	0	4	14	13	3	4	0	38
在韓日本人	0	10	24	13	3	0	0	50
在越日本人	0	27	13	5	1	0	0	46
国内日本人	1	17	18	14	10	3	2	65
在日ブラジル人	1	17	7	2	2	1	1	31
在日フランス人	0	8	11	7	4	0	0	30
在日アメリカ人	0	23	6	1	0	0	0	30
在日韓国人	0	11	16	3	0	0	0	30
在日ベトナム人	1	18	12	1	0	0	0	32
合計	3	135	143	75	31	15	4	406



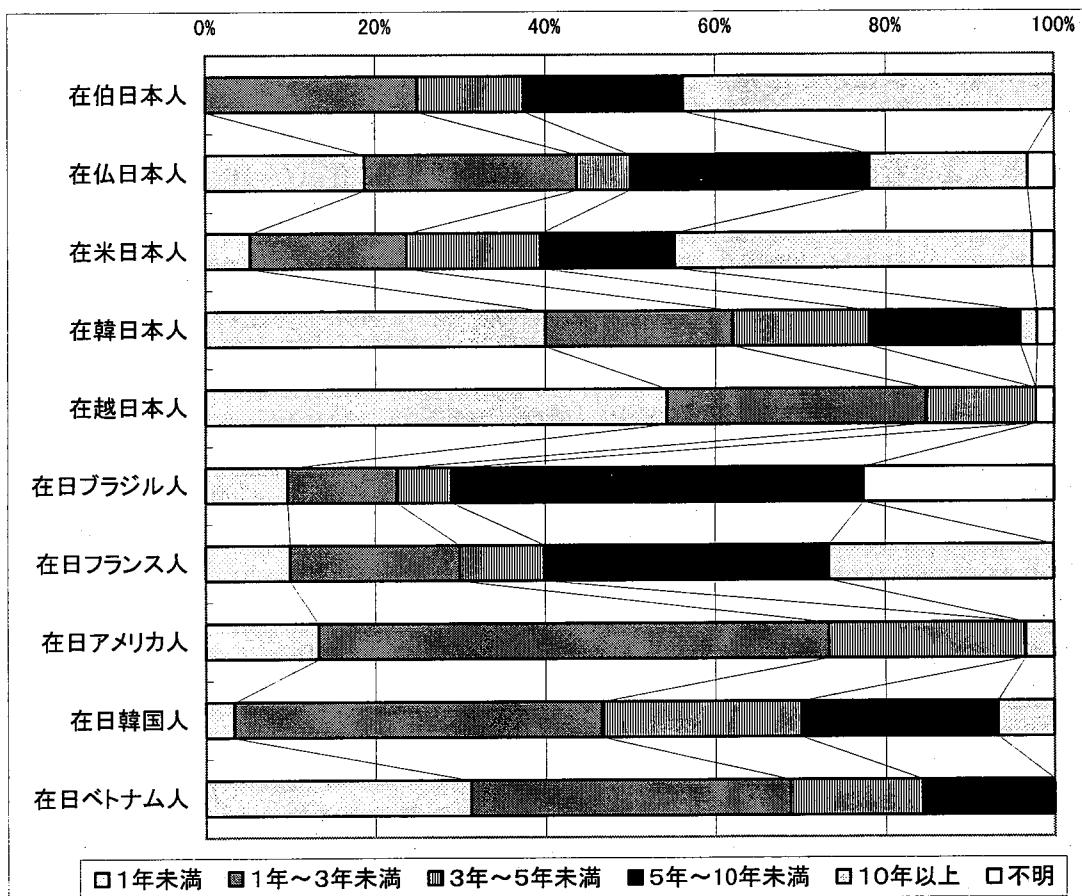
図表 II-3-1b-3 被調査者の年代別内訳(構成比)

c. 現住国滞在年数

以下は滞在年数で被調査者を見たものであるが、まず目につくのは、在仏日本人と在日フランス人の滞在年数の散らばり方である。どちらも幅広い層の被調査者を得ていることを示唆する。

図表 II-3-1c-1 被調査者の滞在年数別内訳(人数)

グループ	1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年以上	不明	合計
在伯日本人	0	8	4	6	14	0	32
在仏日本人	6	8	2	9	6	1	32
在米日本人	2	7	6	6	16	1	38
在韓日本人	20	11	8	9	1	1	50
在越日本人	25	14	6	0	0	1	46
在日ブラジル人	3	4	2	15	0	7	31
在日フランス人	3	6	3	10	8	0	30
在日アメリカ人	4	18	7	0	1	0	30
在日韓国人	1	13	7	7	2	0	30
在日ベトナム人	10	12	5	5	0	0	32
合計	74	101	50	67	48	11	351



グループ毎に、どれ位の滞在年数が大きな集団かを見てみると以下のようになる。

在伯日本人	10 年以上
在仏日本人	分散型
在米日本人	10 年以上
在韓日本人	1 年未満
在越日本人	1 年未満
在日ブラジル人	5 年から 10 年未満
在日フランス人	5 年以上
在日アメリカ人	1 年から 3 年未満
在日韓国人	1 年から 3 年未満
在日ベトナム人	3 年未満

在日アメリカ人は別として、いわゆる欧米圏は双方向とも比較的長期滞在が多く、アジア圏は短期滞在が多い。同一人物でも滞在年数の変化と共に、言語意識が変わることは当然であるから滞在年数のばらつきもまた留意すべき点である。

d. 接触度

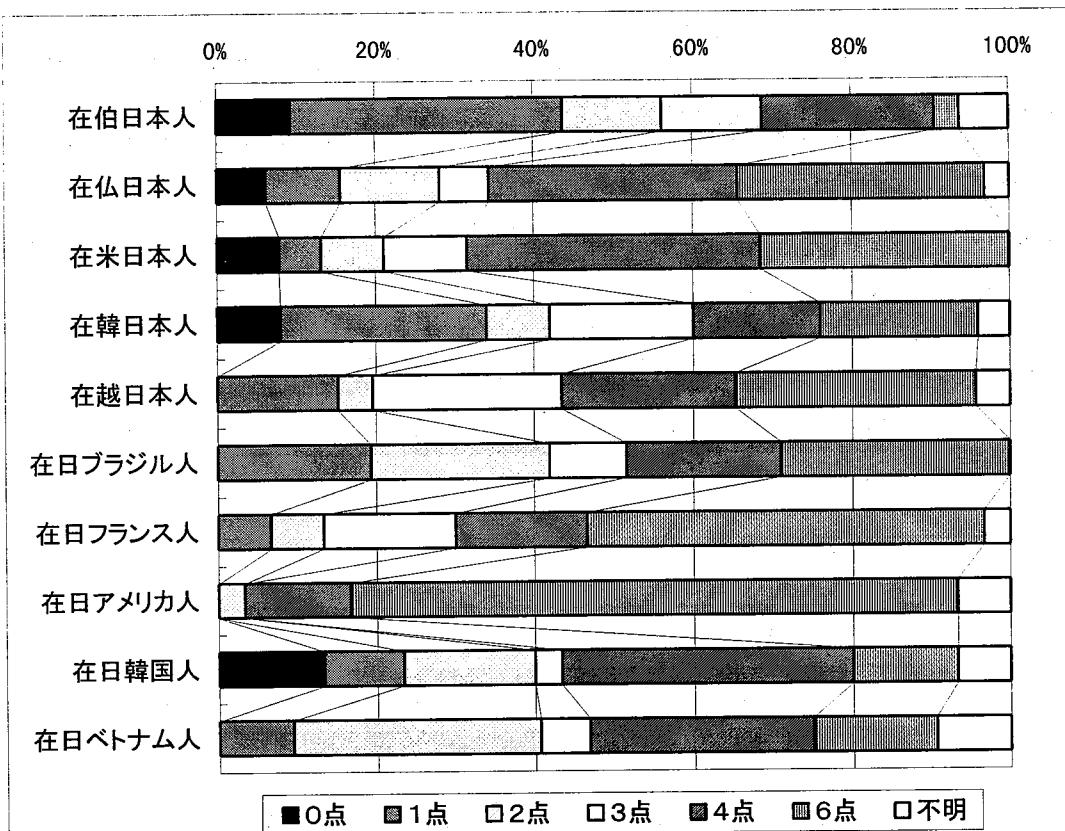
接触度の点数化の方法は、「場面 1」の場合と同様、「多い」は 3 点、「それほど多くない」を 1 点、「ほとんどない」を 0 点としている。

平均点 3.45 は、「仕事の場面」あるいは「仕事以外の場面」で現住国の人とかなりの接触がある人達と考えていいのではないか。しかし、同時に 0 点が 16 人、1 点 50 人、2 点 42 人の存在も無視できない。

こんな中で、在日アメリカ人の接触度の高さはひときわ目につく。自己申告とはいえ、ここには事実の裏付けがあると思われる。次の「職業」で考えてみたい。

図表 II-3-1d-1 被調査者の接触度別内訳(人数)

グループ	0点	1点	2点	3点	4点	6点	不明	合計
在伯日本人	3	11	4	4	7	1	2	32
在仏日本人	2	3	4	2	10	10	1	32
在米日本人	3	2	3	4	14	12	0	38
在韓日本人	4	13	4	9	8	10	2	50
在越日本人	0	7	2	11	10	14	2	46
在日ブラジル人	0	6	7	3	6	9	0	31
在日フランス人	0	2	2	5	5	15	1	30
在日アメリカ人	0	0	1	0	4	23	2	30
在日韓国人	4	3	5	1	11	4	2	30
在日ベトナム人	0	3	10	2	9	5	3	32
合計	16	50	42	41	84	103	15	351



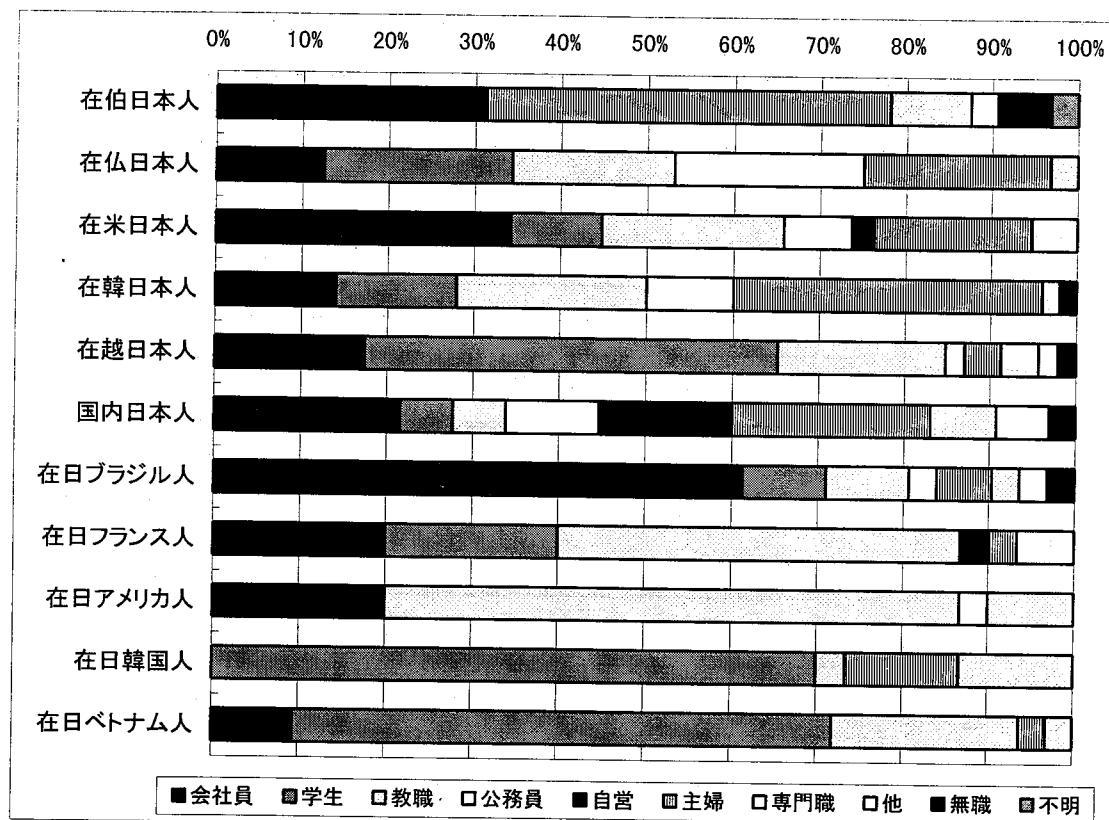
図表 II-3-1d-2 被調査者の接触度別内訳(構成比)

e. 職業

図表 II-3-1e-1 被調査者の職業別内訳(人数)

グループ	会社員	学生	教職	公務員	自営	主婦	専門職	他	無職	不明	合計
在伯日本人	9	0	0	0	1	15	3	1	2	1	32
在仏日本人	4	7	6	7	0	7	1	0	0	0	32
在米日本人	13	4	8	3	1	7	0	2	0	0	38
在韓日本人	7	7	11	5	0	18	1		1	0	50
在越日本人	8	22	9	1	0	2	2	1	1	0	46
国内日本人	14	4	4	7	10	15	5	4	2	0	65
在日ブラジル人	19	3	3	1	0	2	1	1	1	0	31
在日フランス人	6	6	14	0	1	1	2	0	0	0	30
在日アメリカ人	6	0	20	1	0	0	3	0	0	0	30
在日韓国人	0	21	1	0	0	4	4	0	0	0	30
在日ベトナム人	3	20	7	0	0	1	1	0	0	0	32
合計	89	94	83	25	13	72	23	9	7	1	416

全体として見た時に、多い職業は、学生、会社員、教職、主婦となり、各々 94~72 人の間の人数となる。これは、25 人以下である他の職業とは一線を画している。まず学生が特に多いグループとして、在越日本人と在日韓国人、在日ベトナム人の 3 つがあげられる。この 3 グループは比較的年齢が若く、滞在年数が短いという点でも共通性を持つ集団ということになる。



図表 II-3-1e-2 被調査者の職業別内訳(構成比)

様々な職業があがってはいるが、各グループ毎に、1位と2位の職業を列挙すると、以下のようになる。

グループ	1位		2位	
	主婦	会社員	会社員	会社員
在伯日本人	主婦	会社員	会社員	会社員
在仏日本人	学生	公務員	会社員	主婦
在米日本人	会社員	会社員	教職	会社員
在韓日本人	主婦	会社員	会社員	学生
在越日本人	学生	会社員	会社員	教職
国内日本人	主婦	会社員	会社員	会社員
在日ブラジル人	会社員	学生	学生	教職
在日フランス人	教職	会社員	会社員	学生
在日アメリカ人	教職	会社員	会社員	会社員
在日韓国人	学生	主婦	主婦	専門職
在日ベトナム人	学生	会社員	会社員	教職

在伯日本人と国内日本人は「主婦・会社員」集団ということになる。それは、性別（女性が多い）、年齢（比較的高い）などと連動している。そして教職が圧倒的に多いのは、在日アメリカ人である。日本国内の様々な地域の中学校で、英語教育の助手をつとめる人々が多い。彼等の多くは、日常生活を完全に日本語でおくっている。まわりはすべて日本人という人もめずらしくない。

以上、被調査者の広がりを見た。以下、「場面3」を調査の流れにそって見ていく。

II.3.2. 失敗直後の言語行動

II.3.2.1. 前提となる場面

[前提の説明]

調査に用いられた場面の説明は下記の通りである。娘夫婦（20代後半か30代前半と思われる若い妻とその夫）と妻の母親が同居しているらしい形態自体が、文化によってはかなり特殊だとみなされる面もあるが、ここでは触れない。本稿では失敗対処行動に焦点をあてる。

3.1.0. 日本の家庭の食事どきです。若い夫婦と、その妻の母親の三人が食事を始めところです。若い妻は、風邪で熱があってつらい様子で、他の人の話が耳に入りません。

娘（若い妻）は風邪をひいて、ぼんやりとしている。母は娘のごはんをよそっている。風邪でぼんやりしていた娘は、母親から手渡される茶わんを受け取った時、ソースの容器を倒してしまう。

娘：あっ！（ソースの容器が倒れ、中身がこぼれだす。）

以下、様々な角度から、家庭内の言語行動に関してインタビューを行った。

II.3.2.2. 失敗直後の発話

ソースをこぼした時に、ビデオの中の娘（若い妻）の口について出る発話はどんなものだろうか。様々なグループの人々に、日本人女性の家庭内での小さな失敗直後の発話を想像してもらったのが最初の質問である。この時ビデオの音は消してある。

[質問文]

3.1.1. この場面は、[日本]での出来事です。

この人（ソースをこぼした若い妻）は、こぼした直後に、どんな内容の言葉を言ったと思いますか、簡単に説明してください。

[調査結果]

ソースをこぼした直後の発話の内容は広がりを見せたが、以下の10のまとまりに分けられた。①から⑧までは挙げられた発話例の内容で分け、⑨⑩は日本語の発話例が回答の中に挙げられていなかったものである。

分類	発話例
① 直接的謝罪	ゴメンナサイ。ワルカッタ。
② 自分の行動の記述・困惑	コボシチャッタ。ドウショウ。
③ 他者への依頼	フイテ。何かフクモノ。お母さん、フキン。
④ 他者への気遣い	大丈夫？
⑤ 驚き	アッ、タイヘン。キャー。
⑥ 怒り・不快感・失望	バカ。ヤダ。アッ、イケナイ。
⑦ 言い訳	手ガスペッテ。ポーットシテテ。
⑧ 事態の記述・判断	シミンナッチャウ。仕方ガナイ。
⑨ 間接回答／原語／無言	
⑩ 無回答	

次ページの図表に示されているように、やはり一番出現率が高いのは、①の「直接的謝罪表現」である。次に「アッ」といった驚きの表現がかなりの頻度を持ち、その次は「ドウショウ」といった自分の行動の記述・困惑の表現が続いている。

図表 II-3-2a 娘の発話予測 [3.1.1] (回答数)

グループ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
在伯日本人	15	18	4	0	11	6	1	1	0	0
在仏日本人	11	5	0	0	16	5	2	0	2	0
在米日本人	24	7	1	1	9	4	7	0	0	0
在韓日本人	20	7	1	0	19	5	3	0	2	1
在越日本人	28	10	3	0	18	5	1	0	0	0
国内日本人	19	7	0	1	39	3	2	0	6	3
日本人計	117	54	9	2	112	28	16	1	10	4
在日ブラジル人	16	0	1	0	8	1	0	3	3	2
在日フランス人	17	2	0	0	8	1	0	0	7	0
在日アメリカ人	24	0	0	0	10	1	0	0	1	0
在日韓国人	22	8	0	0	4	0	1	2	0	0
在日ベトナム人	25	2	0	0	4	0	2	0	2	2
外国人計	104	12	1	0	34	3	3	5	13	4
合計	221	66	10	2	146	31	19	6	23	8

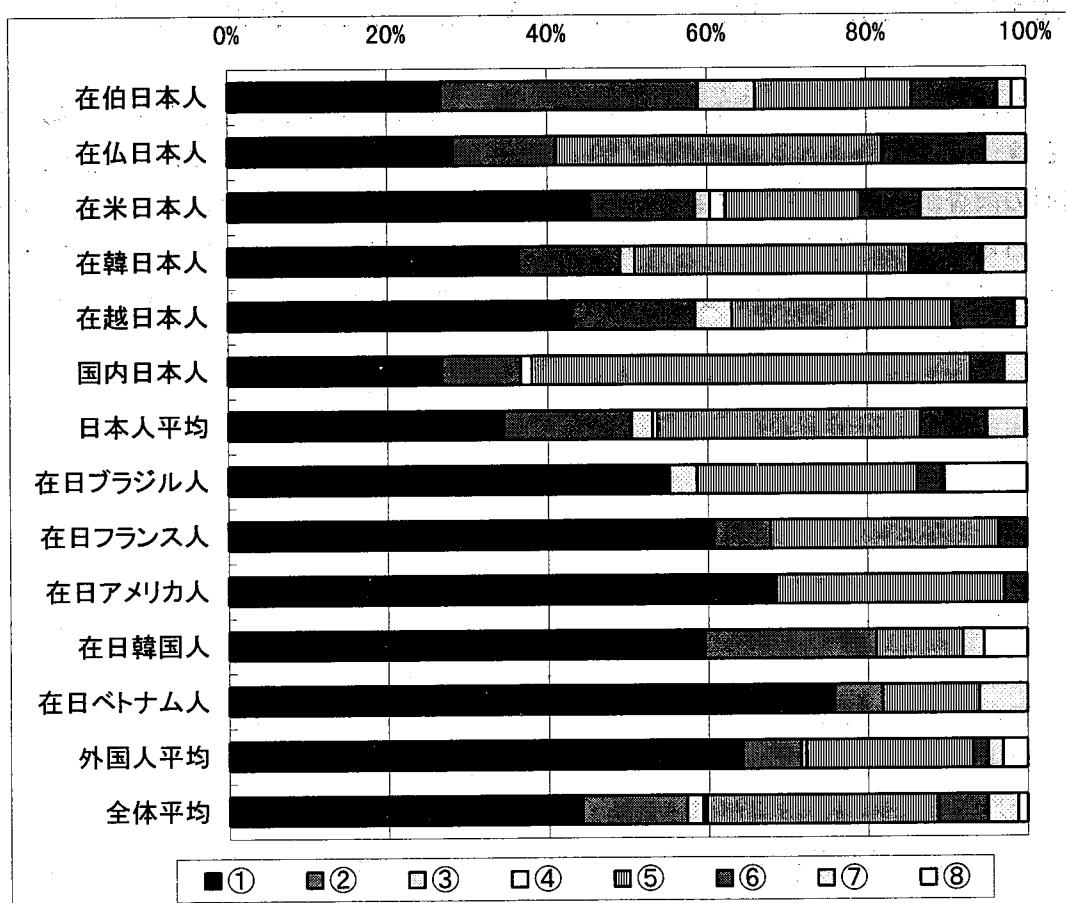
そこで次に、発話例のみを取り上げてみたい。

II-3-2b は、あげられた発話例各々が発話例全体に占める割合を見たものである。従つて、具体的な発話があげられなかった回答⑨、⑩ははずしてある。

II-3-2b を見てもわかるように、①は回答の 44.1%，つまり、5 分の 2 強を占めている。特に、外国人だけとれば、5 分の 3 強で、かなりの高率である。以下、①の直接的謝罪表現をもう少し詳しく見ていきたい。

図表 II-3-2b 娘の発話予測 [3.1.1] (回答率)

グループ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
在伯日本人	26.8%	32.1%	7.1%	0.0%	19.6%	10.7%	1.8%	1.8%
在仏日本人	28.2%	12.8%	0.0%	0.0%	41.0%	12.8%	5.1%	0.0%
在米日本人	45.3%	13.2%	1.9%	1.9%	17.0%	7.5%	13.2%	0.0%
在韓日本人	36.4%	12.7%	1.8%	0.0%	34.5%	9.1%	5.5%	0.0%
在越日本人	43.1%	15.4%	4.6%	0.0%	27.7%	7.7%	1.5%	0.0%
国内日本人	26.8%	9.9%	0.0%	1.4%	54.9%	4.2%	2.8%	0.0%
日本人平均	34.5%	15.9%	2.7%	0.6%	33.0%	8.3%	4.7%	0.3%
在日ブラジル人	55.2%	0.0%	3.4%	0.0%	27.6%	3.4%	0.0%	10.3%
在日フランス人	60.7%	7.1%	0.0%	0.0%	28.6%	3.6%	0.0%	0.0%
在日アメリカ人	68.6%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	2.9%	0.0%	0.0%
在日韓国人	59.5%	21.6%	0.0%	0.0%	10.8%	0.0%	2.7%	5.4%
在日ベトナム人	75.8%	6.1%	0.0%	0.0%	12.1%	0.0%	6.1%	0.0%
外国人平均	64.2%	7.4%	0.6%	0.0%	21.0%	1.9%	1.9%	3.1%
全体平均	44.1%	13.2%	2.0%	0.4%	29.1%	6.2%	3.8%	1.2%



図表 II-3-2c 娘の発話予測 [3.1.1]

II.3.2.3. 謝罪表現の出現率

直接的謝罪表現があげられた回答が、全回答の44%を超すことは既に見た。どの被調査者グループでも、出現率が高いことは確かであるが、数字は微妙に異なっている。直接的謝罪表現の出現率だけを取り出すと、以下の通りである。

図表 II-3-3a 直接的謝罪表現の出現率 [3.1.1]

グループ	発話数	謝罪表現	出現率
在伯日本人	56	15	26.8%
在仏日本人	39	11	28.2%
在米日本人	53	24	45.3%
在韓日本人	55	20	36.4%
在越日本人	65	28	43.1%
国内日本人	71	19	26.8%
日本人平均	339	117	34.5%
在日ブラジル人	29	16	55.2%
在日フランス人	28	17	60.7%
在日アメリカ人	35	24	68.6%
在日韓国人	37	22	59.5%
在日ベトナム人	33	25	75.8%
外国人平均	162	104	64.2%
全体平均	501	221	44.1%

日本人の謝罪行動について「なにか失敗をしたら、すぐ『すみません』とか『ごめんなさい』と言う。しかも、何度も繰り返すことが多い」と言った記述がなされることがある。この場面の調査からもその認識を裏付ける結果が得られたかと思う。特に、外国人は国を問わず、日本人より謝罪表現の出現率が高く、日本人の平均 34.5%に対して、外国人平均は 64.2%になっている。つまり、「日本人はまず謝罪の表現を口にする」という認識は、在日外国人のほうが強いということになる。それも家庭内・家族同士のコミュニケーションにおいても謝罪の表現が頻発するという認識がなされているわけである。

まず、謝罪表現の出現率が低いグループから見ていくと、出現率 30%以下は在伯日本人、在仏日本人と国内日本人の3グループである。在伯日本人の発話には「アーハー、ヤッチャッタ」などの分類⑤と②の表現もかなり多く、在仏日本人の発話には「アララ」「アーハー」などの⑤の感動詞が突出し、国内日本人も「アーハー、大変」など⑤の表現が多い。

逆に、日本人グループで出現率が一番高いのは在米日本人である。半数近い人が、謝罪表現を挙げている。それだけでなく、ベトナムと米国は母語話者にしろ、在住日本人にしろ、謝罪表現の出現率が高い。ベトナム語およびアメリカ英語の（家庭内）会話における謝罪表現の出現率を調査すると、かなり高い傾向が見えるかもしれない。つまり、これらの言語における謝罪表現の多用が、日本人女性の発話予測にも影響した可能性はある。しかし、ベトナム語や英語では謝罪表現をあまり口にしないために、日本語の場合の謝罪表現の回数の多さがことさら印象的で、この場面でも謝罪表現をまず挙げるという傾向が出た可能性もある。この点については、他の質問に関連して再考したい。

II.3.2.4. 謝罪表現と年齢要因

被調査者の年代が高い場合、「いまどきの若い奥さんはまず謝るということをしない」といった認識を持つということはないだろうか。以下は、平均年齢が高いグループから低いグループに順に、出現率を並べたものである。

日本人	伯 26.8	米 45.3	韓 34.5	日 23.8	仏 26.8	越 43.1
外国人	仏 48.6	韓 59.5	伯 47.1	越 67.6	米 66.0	

これからもわかるように、平均年齢の高低と出現率を結び付けるには無理がある。

さらに、以下の図表は、①=10代、②=20代というふうに、年代別に被調査者の何%が謝罪表現を挙げたかを見たものである。例えば、国内日本人グループには10代の被調査者が一人おり、その一人が謝罪表現を挙げたために100%という率になる。在韓日本人は30代が24人おり、そのうち11人が謝罪表現を挙げたため45.8%という率になっている。

図表 II-3-3b 年代別謝罪表現出現率 [3.1.1]

グループ	①	②	③	④	⑤	⑥
在伯日本人	-	-	44.4%	62.5%	14.3%	62.5%
在仏日本人	-	40.0%	30.8%	37.5%	0.0%	-
在米日本人	-	50.0%	92.9%	46.2%	66.7%	25.0%
在韓日本人	-	50.0%	45.8%	30.8%	0.0%	-
在越日本人	-	55.6%	61.5%	80.0%	100.0%	-
国内日本人	100.0%	17.6%	22.2%	42.9%	30.0%	40.0%
在日ブラジル人	100.0%	35.3%	71.4%	50.0%	100.0%	50.0%
在日フランス人	-	25.0%	90.9%	57.1%	25.0%	-
在日アメリカ人	-	82.6%	83.3%	0.0%	-	-
在日韓国人	-	72.7%	75.0%	66.7%	-	-
在日ベトナム人	100.0%	83.3%	66.7%	100.0%	-	-
全体平均	100.0%	54.5%	58.7%	48.0%	32.3%	47.4%

数字の散らばり方から見ても、年齢要因によって何らかの傾向を見いだすのは無理だと考えられる。

II.3.2.5. 謝罪表現と性別要因

次の図表は回答を性別要因から見たものである。年代別謝罪表現出現率と同じ算定方式だが、年代を性別に置きかえた。つまり、II-3-3c では男女別に被調査者数を出し、その中で1回でも謝罪表現を挙げた人の数を「謝罪数」欄に男女別に出した。謝罪表現を挙げた被調査者の占める率が「謝罪率」である。

図表 II-3-3c 性別謝罪表現出現率 [3.1.1]

グループ	男性被験者数	謝罪数	男性謝罪率	女性被験者数	謝罪数	女性謝罪率
在伯日本人	7	0	0.0%	25	15	60.0%
在仏日本人	10	2	20.0%	22	9	40.9%
在米日本人	12	11	91.7%	26	13	50.0%
在韓日本人	23	9	39.1%	27	11	40.7%
在越日本人	18	11	61.1%	28	17	60.7%
国内日本人	24	6	25.0%	16	13	81.3%
日本人計	94	39	41.5%	144	78	54.2%
在日ブラジル人	15	9	60.0%	16	7	43.8%
在日フランス人	13	10	76.9%	17	6	35.3%
在日アメリカ人	18	16	88.9%	12	8	66.7%
在日韓国人	11	6	54.5%	19	16	84.2%
在日ベトナム人	19	15	78.9%	13	10	76.9%
外国人計	76	56	73.7%	77	47	61.0%
合計	170	95	55.9%	221	125	56.6%

「日本人 対 外国人」という形で比較対照した場合、外国人被調査者の方が謝罪率が高いことは既に見た。そこに性別要因を重ねあわせると、日本人の場合と外国人の場合では、謝罪表現を挙げた被調査者の割合が男女で逆転する。日本人の場合は、女性が挙げる率が高く、外国人の場合はその逆である。日本人女性と外国人男性の謝罪率の高さは何に起因するのだろうか。例えば、女性の場合、ビデオの中の女性の様子が謝罪表現を口にしているように見えたためか、被調査者自身が同様の状況にあった場合、とっさに謝罪表現を口にするためかは明らかではないが、このデータの範囲では男女差はあると見るほうが妥当であろう。

日本人男性の謝罪表現が低い中で、在米日本人男性の謝罪表現の出現率が非常に高いのは目をひく。在米日本人男性被調査者は、大都会に住むビジネス関係者がかなりを占めていた。今回の報告の資料集に再録されている「研究論文集1」の中の小論でも述べた点であるが、「インタビュー被験者となった在米日本人は、日本語であっても英語であっても、攻撃的な言葉遣いを日常的にする人々には見受けられなかった。米国において、周囲の米国人と友好的に、時に注意深く、日常生活をおくることを心がけている人々」に見受けられた。このような職業、家庭環境といった要因は、この種の分析では無視できない点である。しかし、今回の調査では被調査者数が限られており、しかも、被調査者の属性などを考慮した選択がなされたものではない。

以上から、このデータの範囲では、謝罪表現の出現率に、「日本人 対 外国人」および「性別」の2要因の可能性を考えるに留めておきたい。

II.3.2.6. 謝罪表現の形の多様性

謝罪表現にも様々な形がある。回答にはどのような謝罪表現が見られただろうか。現れた謝罪表現は大きく以下の3タイプに分けられた。

- (1) ゴメン系 「ゴメンナサイ」「ゴメン」「ゴメーン」
- (2) スミマセン系 「スイマセン」「ドウモスミマセン」
- (3) シツレイ系 「失礼シマシタ」

図表II-3-3d 謝罪表現の形 [3.1.1.]

グループ	謝罪表現総数	ゴメン系	スミマセン系	シツレイ系
在伯日本人	15	13	2	0
在仏日本人	11	9	2	0
在米日本人	24	24	0	0
在韓日本人	20	19	1	0
在越日本人	28	26	2	0
国内日本人	19	17	2	0
日本人計	117	108	9	0
日本人平均	-	92.3%	7.7%	0.0%
在日ブラジル人	16	13	3	0
在日フランス人	17	12	4	1
在日アメリカ人	24	19	5	0
在日韓国人	22	18	4	0
在日ベトナム人	25	17	7	1
外国人計	104	79	23	2
外国人平均	-	76.0%	22.1%	1.9%
計	221	187	32	2
全体平均	-	84.6%	14.5%	0.9%

図表II-3-3d が示すように、ゴメン系が圧倒的に多いということになる。そして、ビデオの中での発話も「ゴメン」であり、84.6%以上の予測が一致していたということになる。日本人の平均が 92.3%，外国人平均が 76.0%である。家庭内のようなインフォーマルな場で、実の母親に発する謝罪表現であるからゴメン系が選ばれたのか、もっとも身近な謝罪表現であるから選ばれたのかはわからないが、いずれにしろ予測と実現が一致している。これだけ一致率が高いということは、コミュニケーション上の摩擦が生じにくい項目であるということになるだろう。

無論、ここでの質問は、ビデオの中の日本人女性の発話の予測であり、被調査者自身が同様の状況で何と言うかをたずねたものではない。相手の言うことや、一般的によく言わされる発話は知っていても、自身はそのパターンに従わぬいために誤解・摩擦を生むと言うことは当然あり得る。まして何かをこぼすといった失敗をした後には、母語・母文化を色濃く反映した言語行動がとっさにとられ、それが誤解・摩擦を生む可能性はある。

II.3.3. 失敗対処行動の差異

II.3.3.1. 対処行動の予測

ソースをこぼした直後の発話を聞いた質問に対する回答の中には、「⑧他者への依頼」や「⑨無言」という回答も見られた。文化によって、個人によって、様々な行動が見られるだろう。このような行動全般についてたずねたのが次の質問である。

[質問 日本人用]

3.1.2. こんな風にソースをこぼすなどの粗相をしたときの言語行動について、日本人はどういう行動をすることが多いと思いますか？

- ①何もしない。片付けも家族にまかせる。
- ②早く片付けるよう家族に言う。謝ることはしない。
- ③「やあ、悪い。悪い。」くらいの言葉で恐縮の気持ちを表す。
- ④「ごめんなさい」「すみません」などの言葉で詫びる。
- ⑤詫びるだけでなく、「手がすべて」「ひじが椅子にぶつかったものだから」など、言い訳や申し開きも添える。
- ⑥その他

[質問 外国人用]

3.1.2. こんな風にソースをこぼすなどの失敗をしたときですが、〔母国〕の人はどういう行動をすることが多いと思いますか？

- ①何もしない。何も言わない。片付けも家族にまかせる。
- ②謝ることはしない。早く片付けるよう家族に言う。
- ③自分の失敗を認める。日本語でいえば「またやっちゃった」など。
- ④言葉であやまる。日本語でいえば「ごめんなさい」「すみません」など。
- ⑤あやまるし、言い訳や説明も言う。「ごめんなさい。手がすべて。」「すみません。ひじが椅子にぶつかったものだから」など。
- ⑥あやまらないが、言い訳や説明は言う。「手がすべて」「ひじが椅子にぶつかったから」など。
- ⑦その他

ここで注意すべき点が二つある。ひとつは、日本人を含めた全員に母国の人言語行動をたずねたものであること、従ってどこの国の人について答えているかは被調査者の母国によって異なることである。そして次に、選択肢の数が日本人用は6つ、外国人用は7つと、異なる点である。

[調査結果]

上に述べたように、日本人グループの選択肢には、外国人グループの⑥にあたる選択肢がない。その違いが④と⑤の間で、日本人グループと外国人グループ間のわずかな逆転が起きることにつながっている可能性がある。いずれのグループでも、回答数が被調査者数を上回るが、ひとりの被調査者で複数の回答があり得るとした人がいたことを示す。また、在米、在越などの在外日本人の「その他」の回答の大半は、「3と4の中間」という答である。はっきりとした謝意とされるかされない位の表現を使うといった気持ちを示すものであろう。

日本人は簡単に番号で回答した被調査者が多かった。それに比べて、在日外国人はコメントが多く「その他」に分類されている。例えば以下のような例が見られる。

- ・在日ブラジル人ー何も言わず自分で片付ける。自分がこぼしたのだから、他の人に何か言うというより自分に怒る。
- ・在日フランス人ーわざとしたわけではないので、謝らなくてもよい。他の人も謝ることを期待していない。
- ・在日アメリカ人ーすぐ謝らないで片付けを手伝う。
- ・在日韓国人ー何も言わずさっさと片付ける。家族同士ではあまり謝罪をしないので。
- ・在日ベトナム人ー普通は皆で片付ける。本人は何も言わないことが多いけれど、お父さんやお母さんは叱る。

図表II-3-4a 母国の人行動予測 [3.1.2] (回答数)

グループ	①	②	③	④	⑤	⑥	その他	計
在伯日本人	1	1	7	12	18	-	0	39
在仏日本人	0	1	7	16	14	-	0	38
在米日本人	0	0	10	19	15	-	2	46
在韓日本人	1	2	11	23	17	-	1	55
在越日本人	0	0	18	25	10	-	2	55
国内日本人	2	3	14	23	23	-	1	66
日本人計	4	7	67	118	97	-	6	299
在日ブラジル人	1	1	2	7	14	2	5	32
在日フランス人	0	1	6	9	9	7	9	41
在日アメリカ人	0	0	6	10	9	6	4	35
在日韓国人	0	4	8	7	13	3	3	38
在日ベトナム人	0	1	4	4	15	5	9	38
外国人計	1	7	26	37	60	23	30	184
合計	5	14	93	155	157	23	36	483

全体を見ると、④、⑤が1、2位を占め、ブラジル、フランス、米国は日本人と外国人が同様の傾向を示す。どの国の人も、母国の人は失敗をした時、謝罪の言葉（と言い訳や説明）を言うことが多いと考える傾向が強いことは確かであるが、その中でベトナムにいる日本人は、日本人の謝罪行動を「失敗を認める」「詫びる」人が多く、「詫び、言い訳も言う」人は少ないと考えている。つまり、他の国に滞在する日本人よりも、詫びるだけ、あるいは、失敗を認めるだけととらえる人の割合が高い。そして、それに呼応するかのように、在日ベトナム人がベトナム人の行動を、（詫びを言う・言わないは別として）言い訳を言うととらえている。つまり、両者一致して、ベトナム人よりも日本人の謝罪行動の方が言い訳が少ないととらえているわけである。

なお、行動予測に男女間で著しい差は見られなかった。

図表II-3-4b 母国の人行動予測 [3.1.2] (回答率)

グループ	①	②	③	④	⑤	⑥	その他
在伯日本人	2.6%	2.6%	17.9%	30.8%	46.2%	—	0.0%
在仏日本人	0.0%	2.6%	18.4%	42.1%	36.8%	—	0.0%
在米日本人	0.0%	0.0%	21.7%	41.3%	32.6%	—	4.3%
在韓日本人	1.8%	3.6%	20.0%	41.8%	30.9%	—	1.8%
在越日本人	0.0%	0.0%	32.7%	45.5%	18.2%	—	3.6%
国内日本人	3.0%	4.5%	21.2%	34.8%	34.8%	—	1.5%
日本人平均	1.3%	2.3%	22.4%	39.5%	32.4%	—	2.0%
在日ブラジル人	3.1%	3.1%	6.3%	21.9%	43.8%	6.3%	15.6%
在日フランス人	0.0%	2.4%	14.6%	22.0%	22.0%	17.1%	22.0%
在日アメリカ人	0.0%	0.0%	17.1%	28.6%	25.7%	17.1%	11.4%
在日韓国人	0.0%	10.5%	21.1%	18.4%	34.2%	7.9%	7.9%
在日ベトナム人	0.0%	2.6%	10.5%	10.5%	39.5%	13.2%	23.7%
外国人平均	0.5%	3.8%	14.1%	20.1%	32.6%	12.5%	16.3%
全体平均	1.0%	2.9%	19.3%	32.1%	32.5%	4.8%	7.5%

II.3.3.2 各国人の謝罪行動

II.3.3.1.では各国人の謝罪行動に違いがあることが示された。II-3-4bを見てもわかるように、在日フランス人と在日ベトナム人は特にコメントが多い。例えば、以下のようなものがある。

- ・在日ベトナム人「スミマセン」という言葉はすぐには出ない。「シンロイ」ではない。雰囲気が重くならないように、言い訳ではないがごまかすことが多い。怒りっぽい人だったら、怒ってしまうかもしれない。ベトナム人はあまり「スミマセン」を言わないから、言い訳をする、或いはごまかす。「ドコカデ、誰カガ私ノコトヲ言ッテイル」などと、日本人でもあるかもしれないが冗談などを言ってごまかすことが多い。

・在日ベトナム人ー最初はびっくりしてすぐ謝らない。自分が片付け、周りの人にも手伝ってもらう。家庭の場面では故意ではなく気にしないでやってしまったことだから謝らないで早く片付ける。もしお客さんがいたらお客さんに対して謝る。

もし、選択肢に「不言実行」、つまり、「何も言わずに、すばやく片付ける」があれば、かなり選択されたかもしれない。そして、日本人グループとの間に差異が見られたかもしれない。失敗直後の気持ちを言語の形で表出するかしないかは、文化によって差があるのではないだろうか。そこで、同じ場面を音を付けて見たあとで、対照国と日本とを比べる質問を行った。

[質問 在外日本人用]

3.2.2. 同じ場面が、もし、この国で、この国の人たちの家庭で起きたとしたら、ソースをこぼした方の人は、この日本の映像と違ったあやまり（お詫び）の仕方をすると思いませんか？それとも、大体同じでしょうか？

[質問 外国人用]

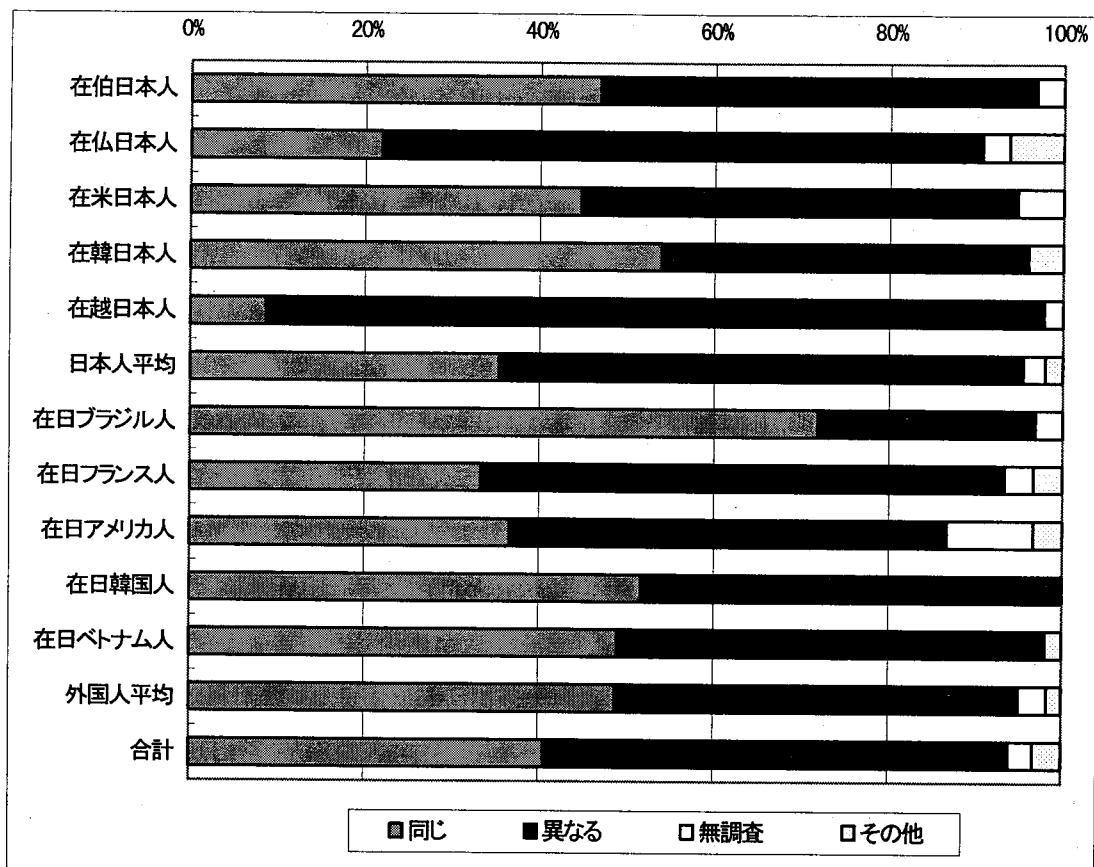
3.2.2. 同じ場面が、もし、母国で、母国の人たちの家庭で起きたとしたら、ソースをこぼした方の人は、この日本のビデオと違ったあやまり（お詫び）の仕方をすると思いますか？それとも、大体同じでしょうか？

[調査結果]

図表 II-3-5a 各国人の謝罪行動 [3.2.2] (回答数)

グループ	同じ	異なる	無調査	その他	計
在伯日本人	15	16	1	0	32
在仏日本人	7	22	1	2	32
在米日本人	17	19	2	0	38
在韓日本人	27	21	0	2	50
在越日本人	4	41	1	0	46
日本人計	70	119	5	4	198
在日ブラジル人	23	8	1	0	32*
在日フランス人	10	18	1	1	30
在日アメリカ人	11	15	3	1	30
在日韓国人	15	14	0	1	30
在日ベトナム人	16	16	0	0	32
外国人計	75	71	5	3	154
合計	145	190	10	7	352

(* 「同じ」と「異なる」の複数回答あり)



図表II-3-5b 各国人の謝罪行動 [3.2.2]

対照国と日本が同じか異なるかが、在外日本人と在日外国人でかけ離れて受けとめられているのは、ブラジルとベトナムの2国である。ブラジルの場合、在伯日本人は謝罪行動が同じだと感じる人が半数近くに過ぎないのに対して、在日ブラジル人は同じだと感じる人がずっと多い。さらに、ベトナムについては、在越日本人は異なると感じる人が圧倒的なのに対して、在日ベトナム人は半数の人が同じだと受けとっている。この受けとめ方の差がどこにあるかは興味深い点である。また、異なるかどうかという点では似たような傾向を示していても、どのように異なるかという中身は人によってまったく違う可能性がある。ここではさらに重ねた質問が必要になる。

II.3.3.3. 謝罪行動の印象

II.3.3.2. を受けて、謝り方がどのように異なるのかを見ようとしたのが次の質問である。謝り方の印象が日本と比べてどうかを問うことで、各国の謝り方を明らかにしようとした。

[質問文]

3.2.2.s. そのような謝り方は日本と比べてどんな印象を持ちますか？

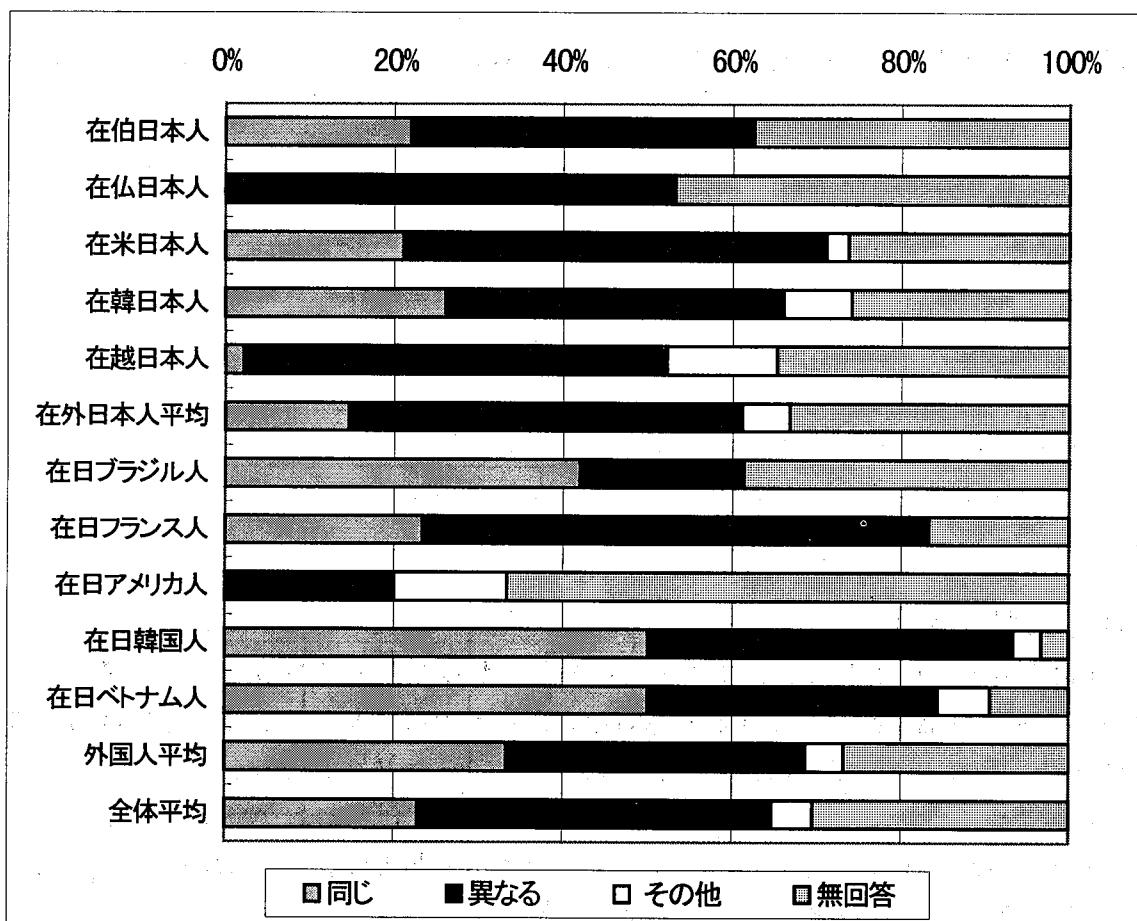
[調査結果]

図表 II-3-6a 謝罪の印象比較 [3.2.2.s] (回答数)

グループ	同じ	異なる	その他	無回答	計
在伯日本人	7	13	0	12	32
在仏日本人	0	17	0	15	32
在米日本人	8	19	1	10	38
在韓日本人	13	20	4	13	50
在越日本人	1	23	6	16	46
日本人計	29	92	11	66	198
在日ブラジル人	13	6	0	12	31
在日フランス人	7	18	0	5	30
在日アメリカ人	0	6	4	20	30
在日韓国人	15	13	1	1	30
在日ベトナム人	16	11	2	3	32
外国人計	51	54	7	41	153
合計	80	146	18	107	351

図表 II-3-6b 謝罪の印象比較 [3.2.2.s] (回答率)

グループ	同じ	異なる	その他	無回答
在伯日本人	21.9%	40.6%	0.0%	37.5%
在仏日本人	0.0%	53.1%	0.0%	46.9%
在米日本人	21.1%	50.0%	2.6%	26.3%
在韓日本人	26.0%	40.0%	8.0%	26.0%
在越日本人	2.2%	50.0%	13.0%	34.8%
在外日本人平均	14.6%	46.5%	5.6%	33.3%
在日ブラジル人	41.9%	19.4%	0.0%	38.7%
在日フランス人	23.3%	60.0%	0.0%	16.7%
在日アメリカ人	0.0%	20.0%	13.3%	66.7%
在日韓国人	50.0%	43.3%	3.3%	3.3%
在日ベトナム人	50.0%	34.4%	6.3%	9.4%
外国人平均	33.3%	35.3%	4.6%	26.8%
全体平均	22.8%	41.9%	4.8%	30.5%



図表II-3-6c 謝罪の印象比較

各国と日本とが「異なる」とする回答は、全体では40%以上に達している。「同様だととらえる被調査者との差が、在日外国人の場合あまりないのに対して、在外日本人の場合にはかなりある点も興味深い。無回答がきわめて多いという点は認識しつつ、もう少し「異なる」とした回答を見てみたい。

II.3.3.4. 謝罪行動の異なり方

日本と対照国との謝り方の印象が「異なる」とした回答のみを取り出し、コメントを見た。それらは、以下のように分類できた。8項目とも、aは日本が項目通り（例-1a　日本人のほうが謝罪表現の量と頻度が多い）、bは対照国が項目通り（例-2b　フランス人のほうが説明・言い訳を言う）とする立場である。

1 謝罪表現の量と頻度が多い

- 1a 在伯日本人－ブラジルでは謝ってはいけないと聞いて、謝らないようにしている。ブラジル人は謝らないのが普通。
- 1a 在日アメリカ人－日本のやり方は疲れる。失敗したらみんなに謝らなければならぬ。

2 説明・言い訳を言う

- 2b 在日フランス人－日本では「ゴメン」と言えば許してもらえる。フランスでは「ゴメン」で済まないかもしれない。15分くらい会話することもある。あの時もこうだったなどと言う。
- 2b 在韓日本人－韓国はそっけない（悪いことをしたという自覚がない）。「ソースガココニアッタノヨ！」とか「手ガ滑ッタカラ」とかは言うが「ゴメンナサイ」という言い方はしない。

3 理由が深刻な時謝る

- 3a 在伯日本人－日本人は小さなこと（道でぶつかる等）では謝らないが、ブラジル人は謝る。大事（交通事故等）になると謝らない国民性と聞くが、小さなことでは日本より基本的ルールを守るブラジルの方が、自分にとってストレスが少ない。
- 3a 在仏日本人－フランス人は自分で責任をとらなくてはならないようなことに対しては自分からは謝らない。一方責任のこないようなことであれば、「Pardon」と気軽に言う。
- 3b 在日フランス人－日本ではよく「ゴメンナサイ」と言うが、必ずしも悪いことをした場合だけではない。自分の考えでは、日本人は謝る理由がなくて、単なるアクシデントであっても謝る。それに対してフランスでは「ゴメンナサイ」は本当に悪いことをした時だけに使う。

4 謝罪が丁寧だ

- 4a 在仏日本人－日本の方が対応が丁寧。まるく納まる感じ。
- 4a 在日ベトナム人－日本の方が丁寧。ベトナム人にも、もっと「アリガトウ」と「ゴメン」をたくさん言ってほしい。
- 4b 在韓日本人－日韓の違いというより、どちらの親と一緒にいるかで変わる。韓国の方が、どちらの親かで変わる度合いが大きいだろう。夫の親といふときは遠慮しているからもっと丁寧に謝る。

5 謝罪に重さ・誠実さがある

- 5a 在伯日本人－ブラジル人は、もっと冗談を言いながらやりそうな感じ。
- 5b 韓国の女性の方が恐縮した感じで謝るだろう。

6 責任追及がなされる

6a 在伯日本人－ブラジルではソースを「こぼした」ではなく「こぼれた」と受け取る。自責の念がない。周囲も追及しない。

6a 在韓日本人－日本では自分に非があることを素直に認める。納めようという感じ。韓国のは、平行線でもとにかく言いたいことを言う。

7 落ち着きがある

7b 在仏日本人－フランス人はもっと落ち着いて対処。ソースをこぼされた方もこぼした方に対して大丈夫だと言うと思う。

7b 在日ブラジル人－ブラジルではのんびりしているからあまり慌てないと思う。「アーチ、ゴメンネ。マタヤッチャッタ」という感じ。

7b 在日アメリカ人－アメリカではパニックにならない。日本人はやりすぎ。

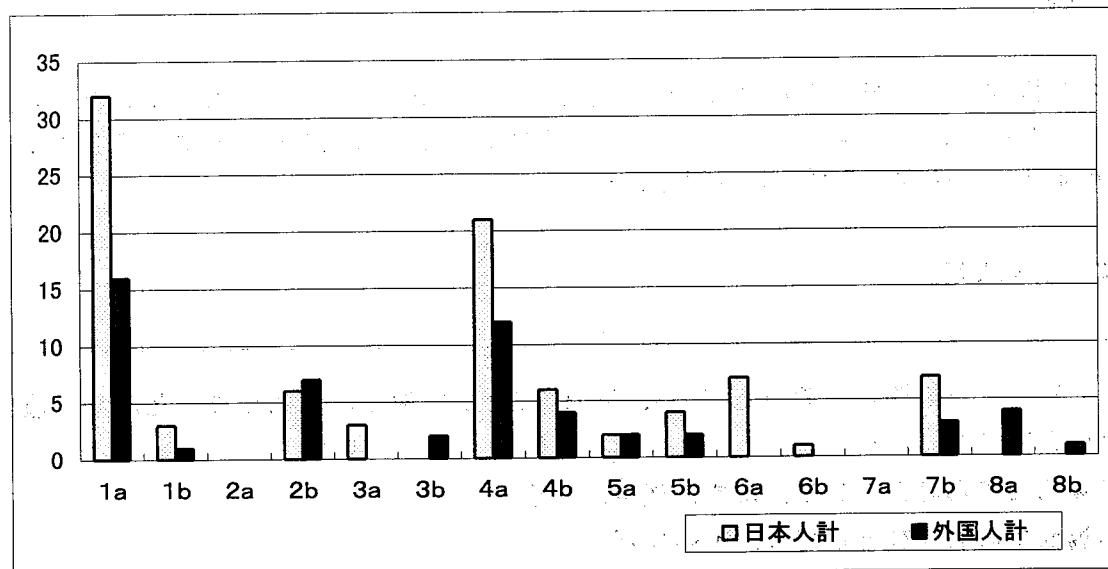
8 表現の規範性が強い

8a 在日フランス人－日本ではスタンダードがある。たくさんあるので覚えることができないが覚えなければまずいことになる。フランスではもっとインフォーマル。自分のやり方、気持ちでできる。一般的にはフランス人にとってはその方が簡単。日本ではスタンダードをよくわかっていないなければならない。フランスでは自分の気持ちをそのまま表現できるのでよい。

8a 在日ベトナム人－外国人にとては日本語の方が簡単に謝れる。自分の言葉での謝りは言いにくい。

図表 II-3-7a 謝罪行動の異なり方 [3.2.2.s.] (回答数)

グループ	1 a	1 b	2 a	2 b	3 a	3 b	4 a	4 b	5 a	5 b	6 a	6 b	7 a	7 b	8 a	8 b	計
在伯日本人	5	—	—	2	2	—	—	—	1	—	3	—	—	—	—	—	13
在仏日本人	3	2	—	—	1	—	4	—	1	—	—	1	—	5	—	—	17
在米日本人	7	—	—	2	—	—	5	—	—	1	3	—	—	1	—	—	19
在韓日本人	3	1	—	2	—	—	3	6	—	3	1	—	—	1	—	—	20
在越日本人	14	—	—	—	—	—	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	23
日本人計	32	3	—	6	3	—	21	6	2	4	7	1	—	7	—	—	92
在日ブラジル人	—	—	—	—	—	—	4	1	—	—	—	—	—	1	—	—	6
在日フランス人	7	—	—	4	—	2	2	—	1	—	—	—	—	2	—	—	18
在日アメリカ人	2	—	—	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	2	—	—	6
在日韓国人	4	1	—	1	—	—	1	2	1	2	—	—	—	—	1	—	13
在日ベトナム人	3	—	—	1	—	—	4	1	—	—	—	—	—	2	—	—	11
外国人計	16	1	—	7	—	2	12	4	2	2	—	—	—	3	4	1	54
合計	48	4	—	13	3	2	33	10	4	6	7	1	—	10	4	1	146



図表II-3-7-c 謝罪行動の異なり方[3.2.2.s]

図表からある程度の傾向が見えると言えよう。まず、日本人・外国人ともに意見が一致したものとして、「日本人はすぐ謝罪表現を口にする、あるいは、何度もくり返す」「外国人は説明・言い訳を言う」「日本人は小さな失敗にあわてる」の3点があげられる。3番目の点はビデオの画面が与える効果というか影響もあるかと思われる。「日本人は謝罪が丁寧だ」という意見もかなり強いが、逆の意見もないわけではない。「軽い感じで謝る」か「恐縮した感じで謝る」かといった点も意見が分かれるところである。

興味深いのは「小さなことでは謝るが、理由が深刻な時などに謝らない」という点である。3a, 3b の例にあげたように、日本人被調査者の中には、ブラジル人やフランス人は小さなことでは謝っても深刻な時には謝らないと感じている人がいる。逆に、フランス人の中には、自分たちは小さなことでは謝罪しないが深刻な時には謝ると感じている人がいる。丁度逆を言っているような印象を受けるが、これは「小さなこと」「深刻なこと」とは何かの認識の違い、個人差、などが複雑にからみあつた結果と思われる。今後の追究が望まれる点である。

日本人だけが指摘した点は、「日本人は自分に非があることを認める」といった失敗の責任への言及がなされるかどうかであった。それに対して、外国人だけが言及した点は、謝罪表現に決まった形があるかどうかという、規範性の強さの点であった。

II.3.3.5. 娘の謝罪行動の適切性

[質問の意図]

ビデオの画面に戻るが、若い妻はソースをこぼした直後に、「ヤー、ゴメン」とくり返しながら、かなり慌てた様子でソースを拭こうとする。その行動の適切性を問うことで、各人の行動ルールを探るのが次の質問である。

[質問文 日本人用]

3.2.1.s.2.1. (前略) この場合のお詫びの仕方として適當だと感じましたか？ 適當ではないと感じましたか？

- ①この場面でのお詫びとして、まずは適當だろう。
- ②この場面でのお詫びとしては、不適當だ。

[質問文 外国人用]

3.2.1.s.2.1. ソースをこぼした人は、そのすぐあと、「ヤー、ゴメン」「ゴメン」と繰り返しあやまっていました。この場面でのあやまり方として、適當だと感じましたか？ 適當ではないと感じましたか？

- ①この場面でのあやまり方として、まずは適當だろう。
- ②この場面でのあやまり方としては、不適當だ。

[調査結果]

回答を見ると「まずは適當だろう」がかなり多い。在伯日本人、国内日本人の100%をはじめとして、国を問わず、年齢を問わず、性別を問わず、ビデオ画面で実現される、失敗直後の「ヤー、ゴメン！」という謝罪は適當であると判断されている。日本人の場合、全グループで4分の3を超え、90%に近い人々が適當だと回答している。外国人はそれよりもやや落ちるが、やはり4分の3以上の人々が適當だと判断している。「適當」という回答がもっとも低いのが在日アメリカ人グループであるが、その理由は不適當とする答が多いからではなく、無回答が多いためである。

無回答率は高い順に以下のようになっている。

在日アメリカ人	30.0%	在日フランス人	20.0%	在仏日本人	18.8%
在韓日本人	12.0%	在米日本人	10.5%	(他はひとけた台)	

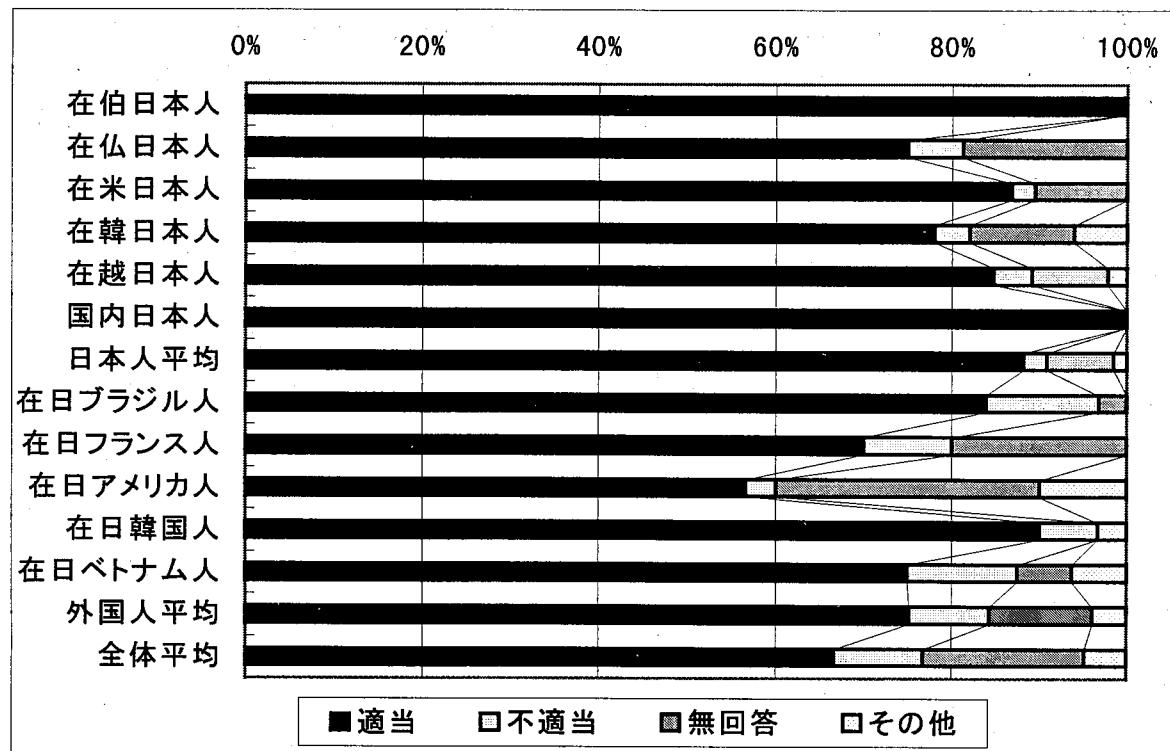
「その他」はもっとも率の高い在日アメリカ人が 10.0% で、他はひとけた台である。以上のように「適当」「不適当」以外の回答率が高い上に、「その他」に分類された回答に「特に適当とも不適当とも思わない」といったものがあることからも、不適当とするわけではないことがうかがわれる。

図表 II-3-8a 娘の謝罪行動の適切性 [3.2.1.s.2.1] (回答数)

グループ	適当	不適当	その他	無回答	計
在伯日本人	32	0	0	0	32
在仏日本人	24	2	0	6	32
在米日本人	33	1	0	4	38
在韓日本人	39	2	3	6	50
在越日本人	39	2	1	4	46
国内日本人	65	0	0	0	65
日本人計	232	7	4	20	263
在日ブラジル人	26	4	0	1	31
在日フランス人	21	3	0	6	30
在日アメリカ人	17	1	3	9	30
在日韓国人	27	2	1	0	30
在日ベトナム人	24	4	2	2	32
外国人計	115	14	6	18	153
合計	347	21	10	38	416

図表 II-3-8b 娘の謝罪行動の適切性 [3.2.1.s.2.1] (回答率)

グループ	適当	不適当	その他	無回答
在伯日本人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
在仏日本人	75.0%	6.3%	0.0%	18.8%
在米日本人	86.8%	2.6%	0.0%	10.5%
在韓日本人	78.0%	4.0%	6.0%	12.0%
在越日本人	84.8%	4.3%	2.2%	8.7%
国内日本人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
日本人平均	88.2%	2.7%	1.5%	7.6%
在日ブラジル人	83.9%	12.9%	0.0%	3.2%
在日フランス人	70.0%	10.0%	0.0%	20.0%
在日アメリカ人	56.7%	3.3%	10.0%	30.0%
在日韓国人	90.0%	6.7%	3.3%	0.0%
在日ベトナム人	75.0%	12.5%	6.3%	6.3%
外国人平均	75.2%	9.2%	3.9%	11.8%



図表 II-3-8c 娘の謝罪行動の適切性 [3.2.1.s.2.1]

「不適当」とした被調査者の場面、コメントが後に続くことが多い。

- ・在伯日本人ーもう少しきれいな言葉で謝った方がいいと思う。
- ・在仏日本人ーもう少し丁寧に言った方がいいように思う。
- ・在米日本人ーあんなに慌てなくてもいいんじゃないいか。
- ・在韓日本人ー「ゴメンナサイ」と言う方がよい。
- ・在越日本人ー落ち着いた段階で、後始末しながら「チョット熱ッポクテ」「ボーットシテテ」などと言い訳しつつ「ゴメンナサイ」と謝るべき。
- ・在日ブラジル人ー「ア、ゴメン、ゴメン」の後で「ゴメンナサイネー」と違う言葉で言った方がいい。
- ・在日フランス人ー言い方や行動が子供っぽい。
- ・在日韓国人ー時間があれば自分が失敗した理由を説明した方がいい。
- ・在日ベトナム人ー「ゴメン。手二机ガブツカリマシタ。ダカラコボシマシタ。スミマセン」ともっと説明を言った方がいい。

以上のように「ゴメン」という謝罪自体を否定するものが多いわけではないことが、これからもうかがわれる。

日本人に関しては、「不適当」とする人々は、在仏日本人の 6.3% が最高で、後は 5% 以下という低さである。外国人グループでも最高がブラジル人の 12.9% であり、このことからも謝罪の仕方が適切性の高い行動と受け取られたと言えよう。

II.3.3.6. 娘の性格 その1

謝罪行動の適切性をたずねた後で、謝罪をした人の性格の印象をたずねた。つまり、ある言語行動についての印象を聞いた後で、言語行動の主体の印象を聞いたわけである。

[質問文]

3.2.1.s.2.2.1. この人はどんな性格の人に見えますか？

[調査結果]

インタビューで自由な回答を得たので様々な言葉が形容に使われた。その中で総計で4回以上出現したものは以下の通りである。(ただし、類義と認められたものは、筆者の判断でまとめているため、分析者によって多少の回答数のズレが出る可能性が大きい。)

図表II-3-9a 娘の性格 その1 [3.2.1.s.2.2.1] (回答数)

グループ	プラス評価							マイナス評価					その他				計
	素直	明るい	優しい	良い	かわいい	活発	我儘	甘えている	憤りてている	自己中心的	そそつかしい	普通	(間接的)	無回答	分からぬ		
在伯日本人	3	2	0	0	0	0	1	4	0	0	0	5	1	11	1	28	
在仏日本人	0	1	0	0	0	0	1	1	2	1	2	2	4	2	6	22	
在米日本人	1	0	0	0	0	0	2	6	1	1	1	4	9	3	1	29	
在韓日本人	6	3	0	0	1	3	2	2	3	1	1	12	3	1	4	42	
在越日本人	6	3	0	0	1	2	1	0	2	0	2	9	5	5	2	38	
国内日本人	8	0	1	1	2	0	4	1	4	1	1	18	5	5	9	60	
日本人計	24	9	1	1	4	5	11	14	12	4	7	50	27	27	23	219	
在日ブラジル人	0	1	4	0	0	0	2	0	0	0	0	11	3	2	0	23	
在日フランス人	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	5	6	0	7	24	
在日アメリカ人	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	13	1	6	2	25	
在日韓国人	0	2	0	1	0	0	2	1	2	4	1	2	4	0	1	20	
在日ベトナム人	0	3	4	5	0	0	0	0	0	0	0	1	8	1	7	29	
外国人計	0	6	11	8	1	0	7	1	2	4	1	32	22	9	17	121	
合計	24	15	12	9	5	5	18	15	14	8	8	82	49	36	40	340	

日本人グループと外国人グループでは使われた単語に異なりがある。プラス評価の単語に、日本人は「素直だ」「明るい」を使い、外国人は「優しい」「いい人」を使う。マイナス評価では日本人が「甘えている」「慌てている」「我儘」と続き、外国人の最頻出語は「我儘」である。

これを見ると日本語の語彙量の多寡といった点がまず考慮されるべきだと思われる。さらに、「素直」とか「甘えている」がどの程度のプラス・マイナスのイメージを持つかが、人によって文化によって異なるという点が考慮されなければならない。訳語の問題もからんで、ただ単純に頻度を比較対照してすむわけではないことは明らかで、今後さらに分析が進められるべきである。

ただ、ここで全体を見れば、プラスとマイナスのイメージが互角に近かったということは言つていいのではないだろうか。行動自体は適切だとみなされても、行動主体の性格の印象は必ずしも良いとは限らないということになる。図表Ⅱ-3-9が示すように、回答の中で、もっとも多いのは、「普通」という中立的なものであり、その次が間接的な回答である。「間接的」とした回答には以下のようなものがある。

- ・「結婚して間もないのに自分の母親と同居していて、夫の機嫌もとらなくてはいけないし、経済的問題もあるかもしれない。」
- ・「ちょっとときやあきやあ言い過ぎ。もっと目の前の現実に対応するのに集中すべき。」
- ・「何かあった時に沈着冷静なタイプではない。」
- ・「お母さんがいるのできっと働いている人。」
- ・「遠慮しているところがない。」
- ・「たくさん仕事をし、時々同僚と喧嘩をする。」

上記はどちらかと言えば、マイナス・イメージがあるが、さほど強くはない。さらに回答の中で次に頻度数が高いのが「無回答」であり、「分からぬ」である。

そして、以下は3回以下の出現率を持つ語である。

- ・「単純明快」「きっちりしている」「さばさば」「男まさり」「はっきりしている」「気さく」「おっとりしている」「元気」「社交的」「自然体」「気配り」「マイペース」
- ・「すばら」「勝手」「イライラ」「厳しい」「子供っぽい」「寂しい」「怖い」「バタバタしている」「感情的」「無愛想」「ムラッ気」

これらから、性格の印象は、肯定的と否定的がほぼ互角であると言えよう。

II.3.3.7. 家族の雰囲気 その1

次の質問は行動主体をとりまく家族の仲がどう見られたかを対比し、人間関係の受けとめ方を見ようとするものである。

【質問文】

3.2.1.s.2.2.2 この家族はどんな雰囲気の家族に見えますか？

[仲がいい ←→ 普通 ←→ よそよそしい] など

【調査結果】

ソースこぼしの直後までの短い場面から、どんな雰囲気の家族に見えるかをたずねるものである。「仲がいい」という回答の占める率がどのグループでも一番高く、特に在日外国人にその傾向が強い。「仲がいい」の占める率が高い順に、在日韓国人、在日ベトナム人、国内日本人と続くことが、日本文化・アジア文化における家族の仲の現れ方を示しているのかもしれない。目に見える愛情表現がどれ位見られるかには文化差もあるだろうが、さらなる調査が待たれる点である。

図表 II-3-10a 家族の雰囲気 その1 [3.2.1.S.2.2.2.] (回答数)

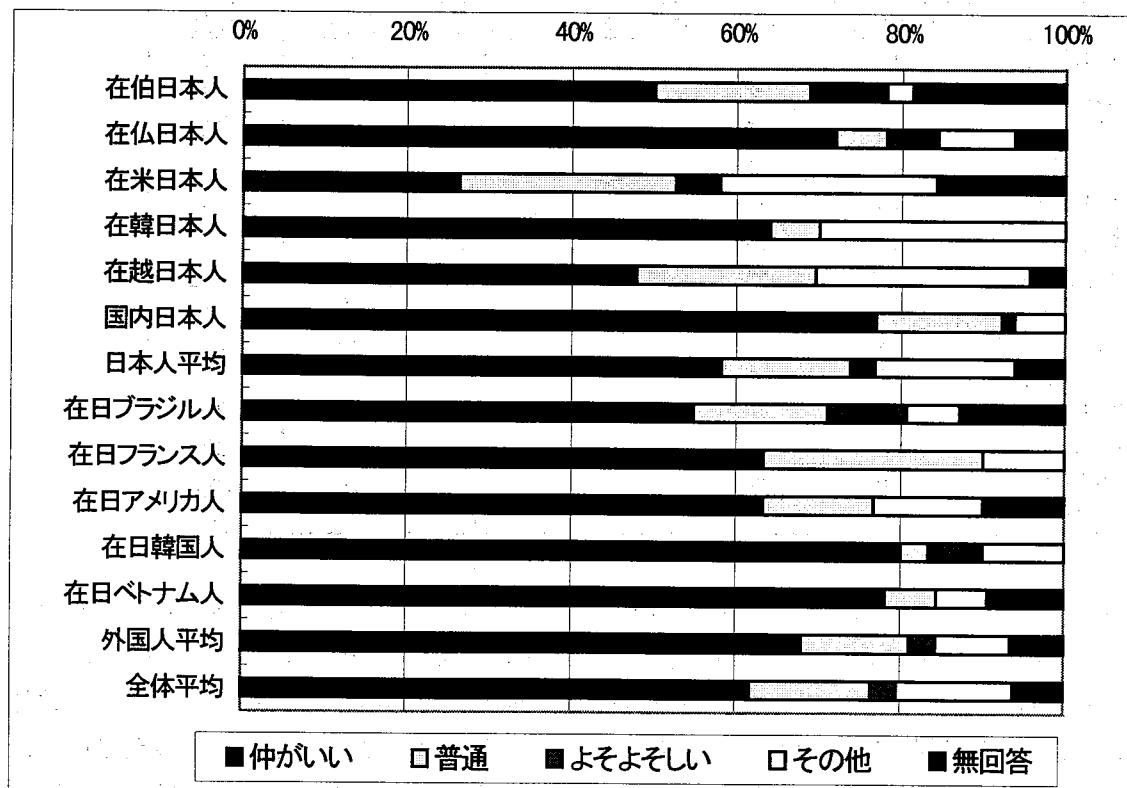
グループ	仲がいい	普通	よそよそしい	その他	無回答	合計
在伯日本人	16	6	3	1	6	32
在仏日本人	23	2	2	3	2	32
在米日本人	10	10	2	10	6	38
在韓日本人	32	3	0	15	0	50
在越日本人	22	10	0	12	2	46
国内日本人	50	10	1	4	0	65
日本人計	153	41	8	45	16	263
在日ブラジル人	17	5	3	2	4	31
在日フランス人	19	8	0	3	0	30
在日アメリカ人	19	4	0	4	3	30
在日韓国人	24	1	2	3	0	30
在日ベトナム人	25	2	0	2	3	32
外国人計	104	20	5	14	10	153
合計	257	61	13	59	26	416

「仲がいい」という被調査者が 50%を超えないのは在米日本人と在越日本人の 2 グループだけである。この 2 グループは「その他」の回答率が高い。「その他」が 4 分の 1 以上を占めるのは、この 2 グループと在韓日本人の 3 グループである。これらのグループの共通点として、妻と母親の組み合わせと、夫と義母の組み合わせについて別々に答えていて、総合的には必ずしも仲が良いとはしないことがある。なかでも「夫が義母に気を遣っている」というコメントは多い。これはソースこぼしが起きる前に、義母と夫が話し合っている

ているのだが、その会話内容から出てきた考えではないだろうか。つまり、夫が義母にむかって「3人で温泉でも行きましょうか」と誘う会話の影響ではないかと思われる。ソースこぼしの場面だけで、夫が義母に気を遣う印象が得られるとは思えない。普通のスピードの日本語会話が理解できたかどうかが回答に影響したのではないかと思われ、つまり、比較対照しているものが、日常会話の聞き取り能力によって左右されている可能性が強い。

図表 II-3-10b 家族の雰囲気 その1 [3.2.1.S.2.2.2.] (回答率)

グループ	仲がいい	普通	よそよそしい	その他	無回答
在伯日本人	50.0%	18.8%	9.4%	3.1%	18.8%
在仏日本人	71.9%	6.3%	6.3%	9.4%	6.3%
在米日本人	26.3%	26.3%	5.3%	26.3%	15.8%
在韓日本人	64.0%	6.0%	0.0%	30.0%	0.0%
在越日本人	47.8%	21.7%	0.0%	26.1%	4.3%
国内日本人	76.9%	15.4%	1.5%	6.2%	0.0%
日本人平均	58.2%	15.6%	3.0%	17.1%	6.1%
在日ブラジル人	54.8%	16.1%	9.7%	6.5%	12.9%
在日フランス人	63.3%	26.7%	0.0%	10.0%	0.0%
在日アメリカ人	63.3%	13.3%	0.0%	13.3%	10.0%
在日韓国人	80.0%	3.3%	6.7%	10.0%	0.0%
在日ベトナム人	78.1%	6.3%	0.0%	6.3%	9.4%
外国人平均	68.0%	13.1%	3.3%	9.2%	6.5%
全体平均	61.8%	14.7%	3.1%	14.2%	6.3%



図表 II-3-10c 家族の雰囲気 その1 [3.2.1.S.2.2.2.]

II.3.4. 言い訳行動

II.3.4.1. 言い訳行動の評価

失敗をした後の当事者の行動は、謝罪表現ひとつでの表出で終わるとは限らない。言い訳や説明が続くことも多いと思われる。次の質問は、ソースこぼし直後の謝罪に続く行動もビデオで視聴した後になされている。ビデオの中の、謝罪表現に続く言い訳を手掛かりに、言い訳行動に関してたずねたものである。ビデオでは、あわててテーブルをふきながら、娘が母に向かって、「お母さんがおどかすからでしょう！」と言う。それに対して娘の夫が「そうやってね、自分でやつといて、人のせいにしちゃよくないよ！」と怒った顔で妻にむかって言う。

[質問文 日本人用]

3.2.3.S.2.1. ソースをこぼした人は、「ごめん」と詫びたあと、「お母さんがドウノコウノ」と言って、こぼしたのが母親のせいだという内容の申し開きをしていましたね。

(後略)

申し開きをすること自体はどう感じますか？

- ①この場面でこういう申し開きは必ず（できるだけ）した方がよい。
- ②是非とも必要だとは言えないが、しても問題ではない。適当だろう。
- ③この場面では、こういう申し開きは不適当だ。

[質問文 外国人用]

3.2.3.S.2.1. ソースをこぼした人は、「ごめん」とあやまったあと、「オ母サンガ、オドカスカラデショウ」と言って、こぼしたのが母親のせいだという内容の言い訳をしていましたね。

言い訳をすること自体はどう感じますか？

- ①この場面でこういう言い訳は必ず（できるだけ）した方がよい。
- ②是非とも必要だとは言えないが、しても問題ではない。適当だろう。
- ③この場面では、こういう言い訳は不適当だ。

[調査結果]

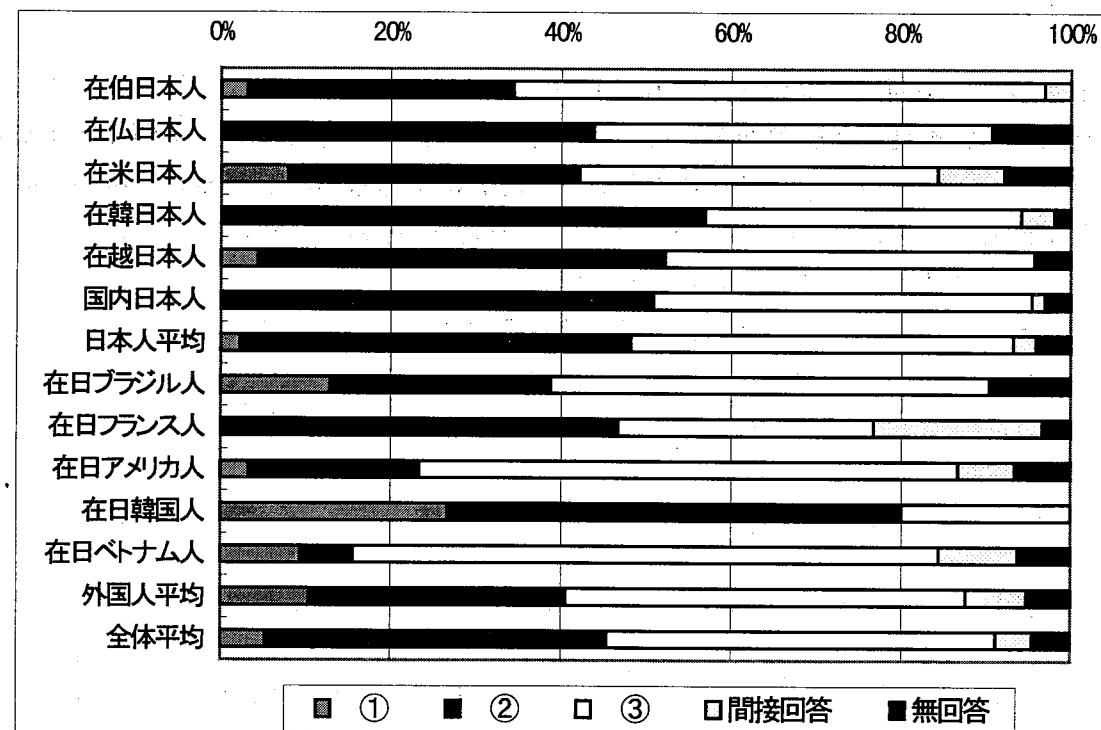
①「言い訳」をするということが必要か、②必要ではないがしてもよいか、③不適当と考えるか、をたずねたわけであるが、同じような率が続く中で、在日韓国人グループだけが異なる傾向を見せている。つまり、他に比べてかなり高い率で「必要だ」としているのである。「言い訳をする」という行動を、「自分の行動を説明する」といった、肯定的な意味で受けとめていることが感じられる。時に「言い訳が多い」と形容されるアメリカ人の中に、「アメリカなら言うが日本では言わない方がいい」といった回答が見られるのとは

対照的である。そして言い訳に否定的なのがベトナム人である。「言い訳はしないにこしたことはない」といったコメントが示すように、「言い訳」をきわめて否定的ニュアンスでとらえている。これは一見 3.3.1.で見た「ベトナム人は、より『詫びるし、言い訳や説明も言う』『詫びないが、言い訳や説明は言う』」という見方が強い傾向と矛盾しているよう見える。しかし、これは娘が母に対して母を責めるような言い方をすることの影響も考えねばならないのではないだろうか。また、「言い訳」という語の与える印象がどのぐらい否定的なものかにもよるかもしれない。「言い訳」という語の各国語における訳語の持つ語感の比較対照は今後の課題である。

図表 II-3-11a 言い訳行動の適切性 [3.2.3.s.2.1] (回答数)

グループ	①	②	③	間接回答	無回答	計
在伯日本人	1	10	20	1	0	32
在仏日本人	0	14	15	0	3	32
在米日本人	3	13	16	3	3	38
在韓日本人	0	29	19	2	1	51*
在越日本人	2	22	20	0	2	46
国内日本人	0	33	29	1	2	65
日本人計	6	121	119	7	11	264
在日ブラジル人	4	8	16	0	3	31
在日フランス人	0	14	9	6	1	30
在日アメリカ人	1	6	19	2	2	30
在日韓国人	8	16	6	0	0	30
在日ベトナム人	3	2	22	3	2	32
外国人計	16	46	72	11	8	153
合計	22	167	191	18	19	417

(*②と③の複数回答あり)



図表 II-3-11b 言い訳行動の適切性 [3.2.3.s.2.1]

II.3.4.2. 言い訳の誠実性

そこで続く質問は言い訳の中身についてたずねるものである。何らかの失敗をした際に、言い訳や説明をすること自体をかなり否定的にとらえる文化もあると考えられる中で、他人を責めるような内容を持つ言い訳に対する印象がどうかを見るものである。

[質問 日本人用]

3.2.3.S.2.2. 申し開きの内容が、自分がうっかりしていて起こしたことであるのに、母親など他人のせいだと言っていることについて、どんな印象を受けましたか？

- ①自分の責任を他人に転嫁することになるから不誠実な感じがする。
- ②母親がテーブルを強く叩いたから驚いたというのはその通りだ。 など

[質問 外国人用]

3.2.3.s.2.2. 言い訳の内容が、自分がうっかりしていて起こしたことであるのに、母親など他人のせいだと言っていることについて、どんな印象を受けましたか？

- ①自分の責任を他人のせいにすることになるから不誠実な感じがする。
- ②母親がテーブルを強く叩いたから驚いたというのはその通りだ。 など

[調査結果]

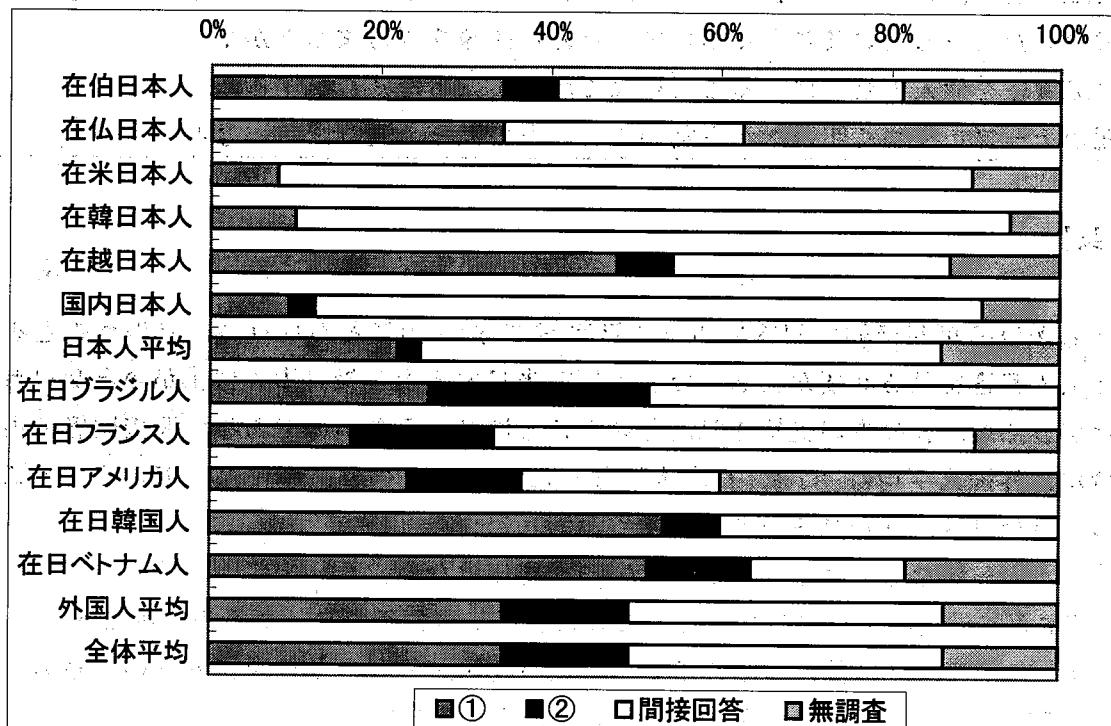
もっとも多いのが間接的な回答であり、無回答率も 13.9%とかなり高いということを認識した上で回答を見る必要がある。たとえば在米日本人と在越日本人は①がひとケタ台だったと言っても、②の方が支持されたということにはならないのである。間接回答の占める割合が、外国人平均は 37%，日本人になると 61.2%という高率になっている。そこにはどのようなコメントが見られるのだろうか。

- ・ 在伯日本人ー姑なら言わない。甘えている。悪気はない。
- ・ 在伯日本人ー母親のせいにしたのは、実の親子だから自然だし、ある程度許せる。
- ・ 在仏日本人ーことばの言い方とここでの家族の関係からみると普通。家族の会話の一部としては受け入れられる。やんわりと受け止められている。
- ・ 国内日本人ー風邪ぎみだったり、ハッとして手も動かしたのかもしれないし、当たり前のこと。
- ・ 国内日本人ー責任転嫁はよくない。単に力が入らず落としたのか分からぬ。
- ・ 在日フランス人ーこうした状況はフランスではあまり一般的なことではないが、ないことではないと思う。
- ・ 在日フランス人ー娘のせいでもあり、おかあさんのせいでもある。 {責任は} 半分半分。

図表 II-3-12a 言い訳の誠実性 [3.2.3.s.2.2] (回答数)

グループ	①	②	間接回答	無回答	合計
在伯日本人	11	2	13	6	32
在仏日本人	11	0	9	12	32
在米日本人	3	0	31	4	38
在韓日本人	5	0	42	3	50
在越日本人	22	3	15	6	46
国内日本人	6	2	51	6	65
日本人計	58	7	161	37	263
在日ブラジル人	8	8	15	0	31
在日フランス人	5	5	17	3	30
在日アメリカ人	7	4	7	12	30
在日韓国人	16	2	12	0	30
在日ベトナム人	17	4	6	6	33*
外国人計	53	23	57	21	154
合計	111	28	219	58	417

(* 「①と②の両方」とする回答が1あり)



図表 II-3-12b 言い訳の誠実性 [3.2.3.s.2.2]

以上から、一般的に娘の言い訳行動をやや不誠実だとする印象が強いといった程度にとるべきであろう。特に在外日本人グループにその傾向が強い。

II.3.4.3. 娘の性格 その2

「II.3.3.6. 娘の性格 その1」は、ソースこぼし直後までの短いシーンから、娘である若い妻の印象をたずねた。その時の印象は肯定的と否定的がほぼ互角であった。これが言い訳行動を経て変わったかどうか、もし変わったとすれば、変わり方に文化差や性差があるかを見るのが、この質問の意図である。

[質問文]

3.2.3.s.2.3.1. この人はどんな性格の人に見えますか？
甘えている 勝ち気 誠実でない など

[調査結果]

II.3.3.6.の調査時とは異なり、ここでは調査者によっては回答を誘う表現を用いている。つまり、調査の際に「甘えている 勝ち気 誠実でない」などの語を出した場合と出さなかった場合が生じているのである。頻度4以上の言葉を見ると、肯定的な評価が大きく減っているのが目に付くが、調査方法が影響した可能性は否定できない。II.3.3.6.の段階で日本人グループのマイナス評価で多く出ていた「甘えている」「慌てている」「我儘」のうち、「甘えている」と「我儘」が大きくふえている。さらに、「甘やかしている」も9回を数え、かなり母子の関係が目についたことが推察される。「勝ち気」の31回、「勝手」の8回は、娘の言い訳行動、および、注意する夫とのにらみ合いから出てきた評価であろう。外国人グループでも「我儘」「甘えている」「子供っぽい」「勝手」といった語が上位を占める点は興味深い。日本語の語彙力の問題、訳語の問題はここでも当然無視できない。

図表II-3-13 娘の性格 その2 [3.2.3.s.2.3.1] (回答数)

グループ	プラス評価					マイナス評価					その他			計
	明るい	活発	優しい	甘えている	わがまま	勝気	勝手	子供っぽい	甘やかしている	おっちょこちょい	考えない	-	普通	
在伯日本人	0	0	0	23	4	0	0	0	2	0	0	1	0	30
在仏日本人	0	0	0	12	5	5	1	0	1	0	0	6	0	30
在米日本人	0	0	0	23	5	2	0	0	2	1	0	5	1	39
在韓日本人	5	0	0	7	14	9	3	1	3	0	0	4	6	52
在越日本人	0	2	0	13	8	5	1	1	0	2	2	9	4	47
国内日本人	0	0	0	25	10	10	3	1	1	2	1	5	4	62
日本人計	5	2	0	103	46	31	8	3	9	5	3	30	15	260
在日ブラジル人	0	0	1	4	4	1	1	4	0	0	0	5	8	28
在日フランス人	0	1	2	3	6	0	0	5	0	0	0	7	3	27
在日アメリカ人	0	0	1	1	1	0	1	2	0	0	1	23	1	31
在日韓国人	3	0	0	7	7	1	7	1	0	2	0	2	0	30
在日ベトナム人	0	1	0	7	7	2	0	0	0	0	0	11	3	31
外国人計	3	2	4	22	25	4	9	12	0	2	1	48	15	147
合計	8	4	4	125	71	35	17	15	9	7	4	78	30	407

II.3.4.4. 家族の雰囲気 その2

「II.3.3.7. 家族の雰囲気 その1」ではソースこぼし直後までの短いシーンから家族の仲の印象をたずねた。II.3.4.4.では、その後の展開を視聴した上で、同じ質問をしている。つまり、ソースをこぼした娘が母親に対して言い訳をする、それを夫がしかりつける、そのために若夫婦がお互いににらみ合う、母親がそれをとりなす、といった一連の展開があるのだが、それを見ることによって家族の雰囲気の捉え方が変化したかを探るものである。

【質問文】

3.2.3.s.2.3.2 この家族はどんな雰囲気の家族に見えますか？

〔仲がいい ←→ 普通 ←→ よそよそしい〕 など

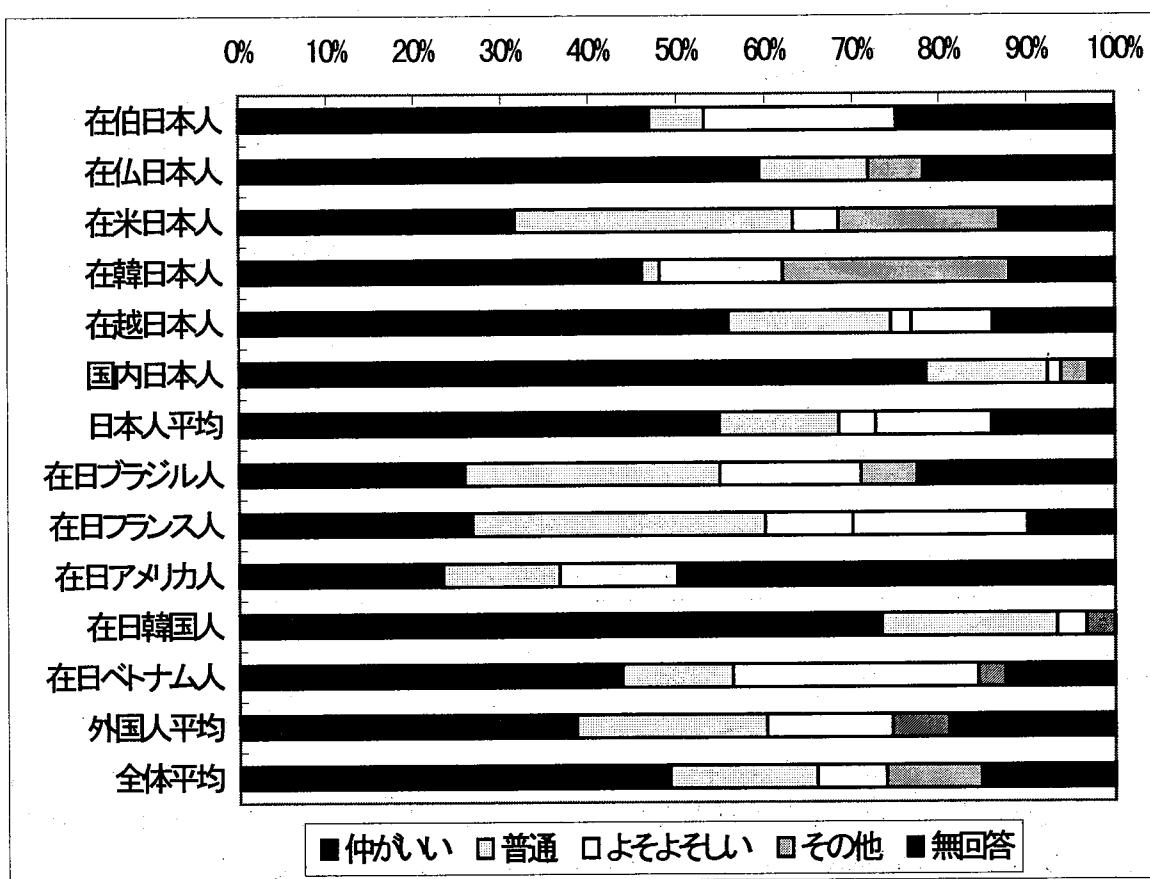
【調査結果】

若い妻の言い訳を聞き、それに対する夫や母親の態度を見ることで、家族の雰囲気の捉え方に変化があっただろうか。日本人グループについては、II.3.3.7.と比べて、大勢は変わらないことがわかる。「仲がいい」と考える人が半数ちょっとである。

図表II-3-14a 家族の雰囲気 その2 [3.2.3.s.2.3.2] (回答数)

グループ	仲がいい	普通	よそよそしい	その他	無回答	合計
在伯日本人	15	2	0	7	8	32
在仏日本人	19	4	0	2	7	32
在米日本人	12	12	2	7	5	38
在韓日本人	23	1	7	13	6	50
在越日本人	24	8	1	4	9	46
国内日本人	51	9	1	2	2	65
日本人計	144	36	11	35	37	263
在日ブラジル人	8	9	5	2	7	31
在日フランス人	8	10	3	6	3	30
在日アメリカ人	7	4	4	0	15	30
在日韓国人	22	6	1	1	0	30
在日ベトナム人	14	4	9	1	4	32
外国人計	59	33	22	10	29	153
合計	347	105	44	80	103	416

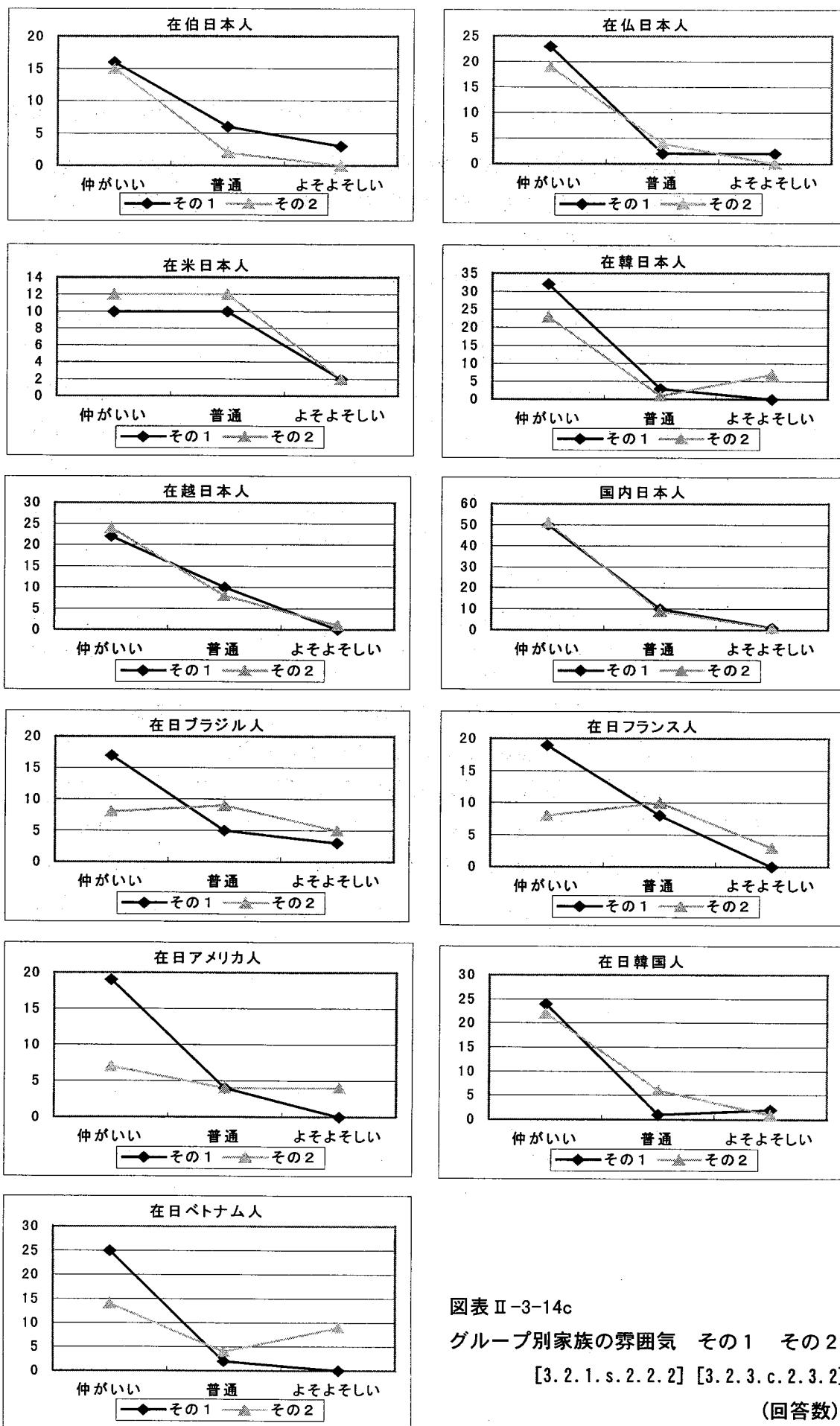
「その他」の多さ、無回答率の高さを認識した上で、「仲がいい」から「よそよそしい」までを比べてみたい。



図表II-3-14b 家族の雰囲気 その2 [3.2.3.s2.3.2]

変化があったのは外国人グループである。「仲がいい」は 68.0% が 38.6% へ落ちており、その分が「普通」と「よそよそしい」へ移動している。「よそよそしい」は II.3.2.7. の 3% から 14.4% となり、日本人グループより遙かに多い。

次ページのグラフは「その他」および「無回答」を除いて、「仲がいい」から「よそよそしい」までの変化を、各グループごとに見たものである。日本人グループは現住国を問わず、「その1」と「その2」の線はほぼ重なっている。外国人グループの中では、韓国人グループだけが日本人グループと同じ傾向を見せている。つまり、大きく「日本人+韓国人 対 その他」という区分が出来そうである。その原因是日本語能力にあるのか、日本文化の知識にあるのか、家族内の人間関係に類似性があるためかは、興味ある点である。



図表 II-3-14c
グループ別家族の雰囲気 その1 その2
[3.2.1.s.2.2.2] [3.2.3.c.2.3.2]
(回答数)

II. 3.5. テーブルたたきに対する反応

「場面3」の最後の質問は母親の行動を手掛かりとするものである。「場面3」の最初の方のシーンで母親が娘の注意を向けさせるためにテーブルをたたく場面がある。このことについての被調査者自身の反応をたずねている。コミュニケーションの場では、狭義の言語以外の要因、例えば非言語行動などが文化的摩擦の直接原因となることが多い。その一端を探るのが、この質問である。

[質問文 日本人用]

3.6. この映像の最初のところで、風邪でボーッとしている人（自分の娘）の注意を向けさせるために、母親がテーブルをたたきます。このことについて、どんな感じがしましたか？日本のことだとして考えてください。

- ①母親は乱暴だと思う ②これくらいは別に乱暴と思わない

[質問文 外国人用]

3.6. このビデオの最初のところで、風邪でボーッとしている人（自分の娘）の注意を向けさせるために、母親がテーブルをたたきます。このことについて、どんな感じがしましたか？

- ①母親は乱暴だと思う ②これくらいは別に乱暴と思わない

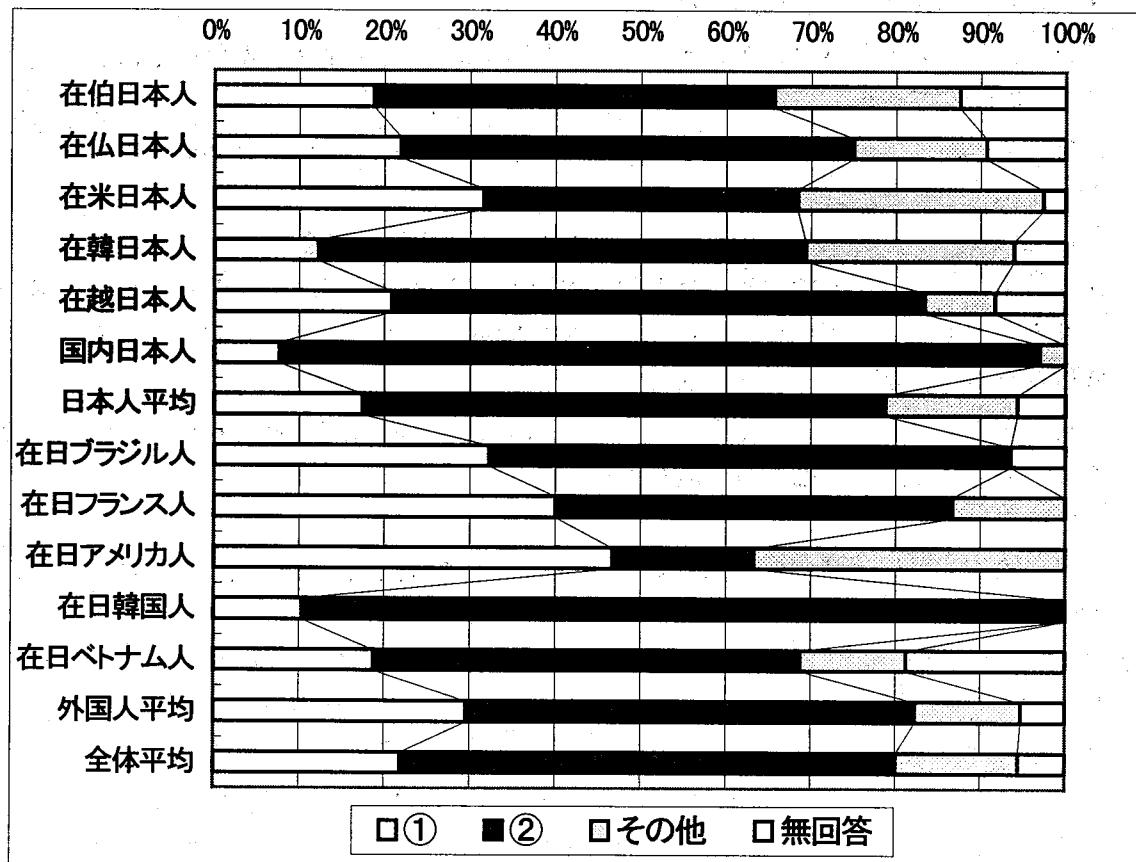
[調査結果]

母親のテーブルのたたき方は「ポンッ」という感じでさほど強いものではない。そのため「別に乱暴とは思わない」という回答の方が「乱暴だと思う」より多い。日本人グループの平均では3.8倍、外国人グループでは2倍弱である。日本人はすべてのグループにおいて、乱暴とは思わない被調査者が思う被調査者より多い。一番気にしなかったのは国内日本人で、「乱暴だ」5人に対して「乱暴ではない」58人である。逆に、一番気にしたのは在米日本人で、ほぼ半々になっている。

次に、在日外国人を見ると、アメリカ人だけが乱暴だと感じる人々が感じない人々を上回っている。それも14対5というかなりの差である。これは在韓日本人（6対28）、在日韓国人（3対26）といった比率とは対照的である。米国の中・上流家庭では伝統的に食事の際のマナーに厳しいと言われる。席のつき方に始まり、食事の際の姿勢、食器の置き方、食物の取り方、食べ方などあるが、音に対しても厳しい面があるのかもしれない。あるいは、英語では人の注意をひく際に名前を呼ぶという言語習慣が定着しているために、日本人の行動について判断するときにも影響が出ているのかもしれない。

図表II-3-15a テーブルたたきに対する自身の反応 [3.6.a] (回答数)

グループ	①	②	その他	無回答	計
在伯日本人	6	15	7	4	32
在仏日本人	7	17	5	3	32
在米日本人	12	14	11	1	38
在韓日本人	6	28	12	3	49
在越日本人	10	30	4	4	48
国内日本人	5	58	2	0	65
日本人計	46	162	41	15	264
在日ブラジル人	10	19	0	2	31
在日フランス人	12	14	4	0	30
在日アメリカ人	14	5	11	0	30
在日韓国人	3	26	0	0	29
在日ベトナム人	6	16	4	6	32
外国人計	45	80	19	8	152
合計	91	242	60	23	416



図表II-3-15b テーブルたたきに対する自身の反応 [3.6.a]

テーブルたたきに関しては、最初の質問に重ねて、各国（在外日本人の場合は現住国、在日外国人の場合は母国）と日本とが異なると思うかをたずねた。以下は「異なる」という意見に関連して述べられたコメントのいくつかである。

- ・ 在伯日本人－テーブル叩きは非常にきつい。ブラジルなら名前を呼ぶと思う。
- ・ 在伯日本人－ブラジルなら机だけでなく皿を叩くこともある。
- ・ 在日ブラジル人－机を叩くことはブラジルだとかなり攻撃的に受けとめられる。
- ・ 在日ブラジル人－ブラジルの方があそこまでしなくともと思うだろう。ブラジルではもう1回名前を呼ぶか、指をならす。机を叩くとしても手の平でなく指先で叩く。
- ・ 在仏日本人－フランスでは手を出すよりも、しつこく名前を呼ぶなど、口で言うと思う。
- ・ 在仏日本人－食事の時に誰かがスピーチをするので出席者の注意を引こうというような時には、グラスをチンチンと鳴らすだろうか。食卓は叩かない。
- ・ 在日フランス人－娘を10歳ぐらいの子供のように扱っている。フランスでは机を叩いたりは、子供に対してしかしない。「Oh oh!」のように目の前で手を振りながら声をかける。
- ・ 在米日本人－アメリカでは、割と何でも言葉にする。名前を呼ぶとか、「御飯トリナサイ」とか、少し大きな声にするとは思うが、他の方法や、ああいう形でメッセージを伝えることはあまりない。必ずコミュニケーションの手段は言語化させてというのが、こっちの基本ではないかと思う。
- ・ 在日アメリカ人－アメリカではテーブルを叩くなんて食事中にそんなにしない。言葉で、「聞イテマス？ ホラ、ドコニイマスカ？」とか言う。
- ・ 在日アメリカ人－アメリカなら、「オーイ、起キロ(Hello, anybody hear me?)」とか声をかけるだろう。
- ・ 在日韓国人－「イタイノ、食ベレルカ」とかもっと優しい声をかける。
- ・ 在越日本人－ベトナムではその様な場面を見たことがないが、声をかけるのが普通だと思う。ベトナムでだったら声をかけ、体に触る。体に触ることに関して日本人ほど抵抗がない。言葉だけのこともある。
- ・ 在日ベトナム人－ベトナムでもテーブルを叩くことはあるが、とても怒っているときだけ。あまり叩くことはない。話をすればいい。

なにげなくテーブルを叩く日本人がいた場合に、別に気にしない人がかなり多いことは、データからもうかがわれる。と同時に、相手に強い否定的感情を起こさせる可能性がかなりあることも調査結果は示唆している。テーブルを叩くかわりに、名前を呼ぶなど声をかける形が好ましいとみなされるのは、国にかかわらず見られる傾向である。データの範囲内では、テーブルたたきに対して寛容な人が、国内日本人と在日韓国人の2グループだけが90%に近い。他のグループは多くても60%台の前半である。逆に、在日フランス人とアメリカ人の場合、乱暴だと感じる被調査者が40%を超えるわけで、テーブルたたきにとどまらず、非言語行動の分析はいっそう進められることが望ましい。

II. 3.6. おわりに

以上、「場面3」で得たデータを、失敗直後の言語行動とその受けとめ方、言い訳とその受けとめ方、そして、非言語行動の点から考えてみた。様々な限界を持つデータではあるが、興味深い傾向をとらえることができた。例えば、以下のようなことがある。

家庭内小さな失敗に対する謝罪の言葉は「ごめん」「ごめんなさい」などのゴメン系が圧倒的に多く用いられると認識されている。日本人はすぐ謝罪表現を口にする、あるいは、何度もくり返す、外国人は説明・言い訳を言いがちだ、日本人は小さな失敗にあわてがちだといった、かなり定着した認識が本調査でも再確認された。日本の謝罪が丁寧だという意見もかなり強い。自分に非があることを認めるかどうかといった点で、多くの日本人は自分たちにはその傾向が強いと感じている。また、「言い訳」や「家族の仲の良さ」など、国によって受けとめ方がかなり異なる項目も見られた。

「場面3」では[3.1.1.]に始まり、[3.6.s]まで、28の質問項目がある。本稿ですべての項目を扱ったわけではない。在外日本人、国内日本人、在日外国人の11グループすべてを対象としたものであること、無回答分が少ないとこの2点を満足する項目を中心に選んだため、国内日本人がインタビュー対象からはずされている項目、時間的制約が強い時調査項目から臨時的にはずされることの多かった項目については、触れていないものもかなりある。さらに本稿ではこの調査結果が謝罪等に関する先行研究とどのように関連づけられ、今後の研究にどのような寄与が出来るか、そして何よりも日本語を母語とする者と母語としない者との間のコミュニケーション改善にどのように貢献できるかについては触ることが出来なかった。それらについても後日別稿において報告したいと思う。